


ネットワークカメラ

ユーザーガイド
SNC-WL862
ソフトウェアバージョン 1.0

お買い上げいただきありがとうございます。

 **警告** 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

このユーザーガイドには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。
このユーザーガイドをよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

はじめに

特長	3
このユーザーガイドの使いかた	4
必要なシステム構成	4
Web ブラウザからカメラにアクセスする	5
RTSP プレーヤーを使う	6
意図せぬ第三者からのカメラへのアクセスを防ぐための 注意事項	6
設定手順	6

カメラの操作

ライブビューアーの構成	8
モニター画面	8
メインメニュー	8
操作パネル部	9

クライアントの設定

カメラの設定

カメラ設定メニューの基本操作	13
カメラ設定メニューの設定のしかた	13
カメラ設定メニューの構成	13
システムメニュー	14
システム > 一般設定	14
システム > ログ	15
システム > パラメーター	15
システム > メンテナンス	15
メディアメニュー	17
メディア > 画像	17
メディア > ビデオ	21
メディア > オーディオ	23
ネットワークメニュー	24
ネットワーク > 一般設定	24
ネットワーク > ストリーミングプロトコル	25
ネットワーク > QoS	27
ネットワーク > SNMP	28
ネットワーク > FTP	29
セキュリティメニュー	29
セキュリティ > ユーザーアカウント	29
セキュリティ > HTTPS	30
セキュリティ > アクセス制限	31
セキュリティ > IEEE 802.1x	32
セキュリティ > その他	33
PTZ メニュー	34
PTZ > PTZ	34

イベントメニュー	35
イベント > イベント設定	35
アプリケーションメニュー	41
アプリケーション > 動体検知	41
アプリケーション > デジタル入出力	42
アプリケーション > カメラ妨害検知	42
アプリケーション > 音声検知	43
録画メニュー	44
録画 > 録画設定	44
ストレージメニュー	46
ストレージ > ストレージ管理	46
ストレージ > コンテンツマネージメント	47

その他

用語集	49
索引	51

はじめに

特長

- ・ 5M ピクセル CMOS イメージセンサーを 4 つ搭載。合計 20M ピクセル高解像度を実現。
- ・ 4 つの独立したイメージセンサーにより、4 つの異なる領域を同時に表示可能。360° の全範囲をカバー。
- ・ 1 センサーあたり最大 30 fps (2688×1920) でモニタリング可能。
- ・ H.265/H.264/JPEG の 3 つの映像圧縮方式 (ビデオコーデック) を使用。
- ・ 最大 3 コーデックの動作モードを選択可能。
- ・ スマートストリームマネージメントによりネットワーク帯域幅の効率を最適化。
- ・ Easy Focus 機能により、設置時のフォーカス調整を容易に行うことが可能。
- ・ IR カットフィルターを内蔵し、オン/オフによりデイモード/ナイトモードを切り替え可能。
- ・ 屋内・屋外両対応。(IP66、IK10 対応)
- ・ 内蔵マイク、外付けマイク端子、音声出力端子で、双方向の音声通信が可能。
- ・ 動体検知、カメラ妨害検知アラーム機能を搭載。
- ・ ストレージ機能により、ネットワーク切断などのアラーム検出結果から映像および音声を記録し、ライブ映像・音声と同じプロトコルを使用してストリーミングすることが可能。
- ・ 日付/時刻を画像にスーパーインポーズすることが可能。
- ・ PoE (Power over Ethernet) 対応。

権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアおよびユーザーガイドの内容の全部または一部を複製すること、およびこのソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されております。

© 2019 Sony Corporation

ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねます。

万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- ・ Microsoft、Windows および Internet Explorer、ActiveX は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Adobe および Adobe Reader、Adobe Flash は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。
- ・ SD、microSD は SD-3C、LLC の商標です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中で®、TM マークは明記しておりません。

このユーザーガイドの使いかた

このユーザーガイドは、ネットワークカメラをコンピューターから操作する方法を説明しています。

このユーザーガイドは、コンピューターの画面上に表示して読まれることを想定して書かれています。

ここではユーザーガイドをご活用いただくために知っておいていただきたい内容を記載しています。操作の前にお読みください。

関連ページへのジャンプ

コンピューターの画面上でご覧になっている場合、関連ページが表示されている部分をクリックすると、その説明のページへジャンプします。関連ページが簡単に検索できます。

ソフトウェアの画面例について

このユーザーガイドに記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。

ユーザーガイドのプリントアウトについて

このユーザーガイドをプリントする場合、お使いのシステムによっては、画面やイラストの細部までを再現できないことがありますので、ご了承ください。

設置説明書について

設置説明書には、カメラ本体の各部の名称や基本的な設置・接続のしかたが記載されています。操作の前に必ずお読みください。

必要なシステム構成

カメラの映像を見たり、制御したりするコンピューターには、次の動作環境が必要です。

(2019年7月現在)

OS

Windows 8.1 Pro

Windows 10 Pro

Web ブラウザ

Windows Internet Explorer Ver. 10、Ver. 11

ご注意

- ・ Windows 10 をお使いの場合は、タブレットモードはオフにして下さい。
- ・ Windows 8.1 をお使いの場合は、デスクトップユーザーインターフェース（デスクトップ UI）版の Internet Explorer をご利用ください。
- ・ Internet Explorer は 32bit 版をご利用ください。

Web ブラウザからカメラ にアクセスする

カメラに IP アドレスを割り当てたら、実際に Web ブラウザからカメラにアクセスできることを確認します。

- 1 コンピューターで Web ブラウザを起動し、カメラの IP アドレスをアドレス欄に入力する。



- 2 ユーザー ID、パスワードを入力する。
認証ダイアログが表示されます。管理者のユーザー名とパスワードを入力すると、ビューアー画面が表示されます。
管理者のユーザー名は、工場出荷時には [admin] が設定されています。パスワードは初回アクセス時にダイアログが表示されますので、新しく設定してください。

画面例



カメラを初めて接続する場合は、プラグインのインストールについてダイアログが表示されます。[はい] をクリックして、ActiveX プラグインをインストールしてください。

ご注意

- ・セキュリティ設定で、ActiveX コントロールの実行が禁止されていることを示すダイアログが表示された場合は、ブラウザの ActiveX コントロールを有効にしてください。
- ・ActiveX コントロールのインストール時は、「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。
- ・現在、カメラは 32 ビットの ActiveX プラグインを使用しています。64 ビットの Internet Explorer ブラウザを使用することは出来ません。
- ・以下の状況では、オンスクリーン Java コントロールが誤動作する可能性があります。
 - PC を同じ IP アドレスを使用している異なるカメラに接続したとき
 - PC を異なるファームウェアバージョンを実行している同じカメラに接続したときブラウザの Cookie を削除することで、この問題は解決します。

- ・ Internet Explorer の互換表示が有効な場合、設定メニューまたは UI 項目の表示に問題が出る可能性があります。この場合、互換表示を無効にしてください。
- ・ Internet Explorer のローカルエリアネットワーク (LAN) の設定を自動構成にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は、自動構成を使用不可にして、手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。

補足

本ソフトウェアの各ページは、Internet Explorer の表示文字サイズ [中] で最適に表示されます。画面が正しく表示されない場合は、「Reload」で再表示してください。

ビューアー画面を正しく表示させるには

ビューアー画面を正しく動作させるためには、以下の手順で Internet Explorer のセキュリティレベルを [中] 以下に設定してください。

- 1 Internet Explorer のメニューバーから [ツール] — [インターネットオプション] — [セキュリティ] タブの順に選択する。
- 2 [インターネット] アイコン (カメラをインターネット環境で使用している場合)、または [イントラネット] アイコン (カメラをイントラネット環境で使用している場合) をクリックする。
- 3 レベルバーを操作して [中] 以下にする。(レベルバーが表示されていない場合は、[既定のレベル] ボタンをクリックしてから、レベルバーを操作してください。)

コンピューターでウイルス対策ソフトウェアなどをお使いの場合

- ・コンピューターでウイルス対策ソフトウェア、セキュリティソフトウェア、パーソナルファイアウォール、ポップアップブロッカーなどをお使いの場合、画像表示のフレームレートが低下するなど、カメラのパフォーマンスが低下する場合があります。

RTSP プレーヤーを使う

RTSP ストリーミングをサポートする動画プレーヤーを使用して、ストリーミング画像を表示することができます。

以下は VLC media player でストリームを表示する手順です。

- 1 RTSP プレーヤーを起動する。
- 2 Media > Open Network Stream を選択すると、URL ダイアログボックスが開きます。
- 3 アドレスフォーマットは `rtsp://<ip address>:<rtsp port>/<RTSP streaming access name>` です。

RTSP ポートはデフォルトの 554 に設定してお使いください。詳細については、「RTSP ストリーミング」(26 ページ) をご覧ください。

例：

```
rtsp://192.168.0.100:554/live1s1.sdp
```

- 4 ライブビデオがプレーヤーで表示されます。

意図せぬ第三者からのカメラへのアクセスを防ぐための注意事項

使用環境によってはネットワーク上の意図せぬ第三者からカメラにアクセスされる可能性があります。セキュリティの面から、カメラ管理者のユーザー名・パスワードをデフォルト設定値から変更して設定することを強く推奨します。意図せぬ第三者からアクセスされた場合、監視を妨げる操作・設定がおこなわれる等のリスクがあります。

例としてネットワーク機器が管理者に無許可でネットワークに接続されている、あるいは接続することができるネットワーク環境や、ネットワークに接続された PC 等のネットワーク機器が許可なく使用可能な環境では、カメラに不正なアクセスをされる可能性があります。こうした環境への接続は、お客様の責任において行われるものとします。また、カメラへの不正なアクセスを防ぐため、以下の設定手順で設定しカメラを使用してください。

設定作業中または設定作業後のブラウザで他のサイトを閲覧しないでください。ブラウザに、カメラにログインした状態が残りますので、意図しない第三者の使用や悪意のあるプログラムの実行を防ぐために、設定作業が完了したら必ずブラウザを閉じてください。

設定手順

- 1 SNC toolbox を使い、カメラのネットワークアドレスの設定をしてください。
SNC toolbox の使い方は、アプリケーションガイドをご覧ください。
この手順以降カメラのネットワーク設定変更には SNC toolbox を使用しないでください。カメラを検索するだけであれば問題ありません。
- 2 Web ブラウザを起動し、カメラ設定の「セキュリティ > HTTPS」で、[HTTPS を有効にする] のチェックボックスにチェックを入れ、HTTPS (SSL) を有効にします。
詳細については、カメラ設定メニューの「セキュリティメニュー」(29 ページ) をご覧ください。
- 3 Web ブラウザを再起動し、カメラに再度アクセスします。
- 4 カメラ管理者のユーザー名・パスワードを設定します。
詳細については、カメラ設定メニューの「セキュリティメニュー」(29 ページ) をご覧ください。

5 「セキュリティ > その他」で、[Cross-Site Request Forgery (CSRF) 保護を有効にする] のチェックボックスにチェックを入れます。
詳細については、カメラ設定メニューの「セキュリティメニュー」(29 ページ) をご覧ください。

6 「ネットワーク > FTP」で、[FTP サーバーを有効にする] のチェックボックスの選択を外します。

ご注意

FTP による静止画送信機能をお使いになる場合は、SSL 接続が使用できず、通信の内容が暗号化されません。カメラへの不正なアクセスの危険がある場合は、FTP 機能を利用しないでください。

以後、HTTPS (SSL) 接続を使用してカメラをお使いください。

カメラの操作

ライブビューアーの構成

ここでは、ライブビューアーの各部の名前と機能を説明します。詳しい説明は、それぞれの機能の説明ページをご覧ください。

メインメニュー



操作パネル部

モニター画面

モニター画面

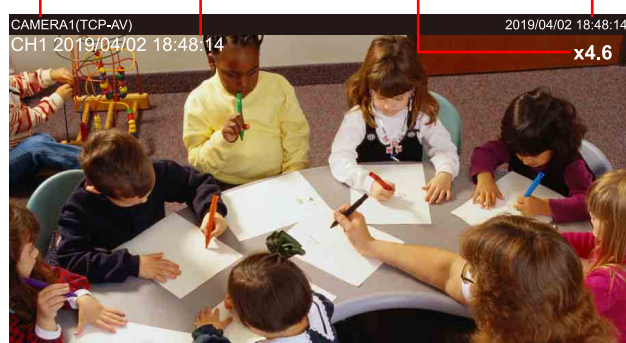
カメラのライブ映像が表示されます。マウスホイールにより、1～12倍のデジタルズームを実行できます。

ビデオタイトル、
H.265/H.264 プロトコルオプション

タイトル&時刻

ズーム倍率

時刻



ビデオタイトル

ビデオタイトルは、「ビデオの設定」(17 ページ) で設定できます。

H.265/H.264 プロトコルオプション

[クライアント設定] で設定する H.265/H.264 プロトコルオプションを表示します。詳細については、「クライアントの設定」(12 ページ) をご覧ください。

倍率

デジタルズームの倍率を表示します。

タイトル&時刻

動画タイトルは、「ビデオの設定」(17 ページ) で設定できます。タイトルに続いて現在の時刻を表示します。

時刻

現在の時刻を表示します。

メインメニュー

ライブ

ライブビュー画面を表示します。

クライアント設定

このボタンをクリックして、クライアント設定ページにアクセスします。詳細については、「クライアントの設定」(12 ページ) をご覧ください。

カメラ設定

このボタンをクリックして、カメラの設定ページにアクセスします。カメラ設定は、管理者としてログインした場合のみ可能です。詳細については、「カメラの設定」(13 ページ) をご覧ください。


ライセンス表示

ソフトウェアの使用許諾書などを表示します。

言語

プルダウンにより使用する言語を設定します。

操作パネル部

 をクリックすると、詳細設定画面が非表示になります。もう一度クリックすると表示されます。

ビューパネル



動画ストリームの変更、スクリーンモードの変更、ビューサイズの変更、静止画保存の実行、動画保存の実行/停止、音声出力ボリュームの調整ができます。

ビュー

ライブビュー画面に表示する動画ストリームを選択します。このカメラは同時に複数のストリームをサポートしています。チャンネルとビデオストリームの組み合わせから選択します。

複数のストリームの詳細については、カメラ設定画面の「メディア > ビデオ」(21 ページ)をご覧ください。

ビデオストリーム

選択したビデオストリームのチャンネル番号とストリーム番号が表示されます。

[QuadMode] を選択すると、4チャンネルを4画面に同時に表示します。

ご注意

4画面表示時は [ビデオストリーム] 以外の操作パネルは操作できません。

スクリーンモード

ウィンドウ表示とフルスクリーン表示を切り替えます。フルスクリーン表示からウィンドウ表示に切り替えるには [Esc] キーを押してください。

ビューサイズ (画像表示サイズ)

画像の表示サイズを選択します。

[×1/4] : 4分の1の画像サイズで表示されます。


[×1/2] : 2分の1の画像サイズで表示されます。

[×1] : ビデオメニューの「動画サイズ」(21 ページ) で選択した画像サイズで表示されます。

[フル] : 表示画像サイズに合わせて表示されます。

[フィット] : 表示画像サイズに合わせてアスペクト比を固定し表示されます。


キャプチャー

記録動画の一場面を静止画ファイルとしてコンピューターに保存するときクリックします。 をクリックすると静止画の保存先フォルダーが開きます。

ご注意

Windows のコントロールパネルにあるインターネットオプションダイアログのセキュリティプロパティで、保護モードが有効になっているときは、静止画像のキャプチャーはできません。

動画保存の実行 / 停止

動画保存の実行および停止をします。 をクリックすると動画の保存先フォルダーが開きます。

ご注意




・ Windows のコントロールパネルにあるインターネットオプションダイアログのセキュリティプロパティで、保護モードが有効になっているときは、動画の保存はできません。

・ 動画保存は5秒以上録画してください。5秒未満の動画は再生できない場合があります。

音量



+、- ボタンで、カメラのマイク入力コンピューターで出力する音声の音量を調整します。

 をクリックするとボタンが  に変わり、スピーカーからの音声出力が止まります。もう一度音声を出力するには  をクリックします。




ご注意

ビデオコーデックの設定で [JPEG] を設定している場合は、カメラのマイク入力を使用できません。

マイク音量

+、- ボタンで、コンピューターからのマイク入力の音量を調整します。



 をクリックするとボタンが  に変わり、マイク音声の入力が止まります。もう一度音声を出力するには  をクリックします。

ご注意

[クライアント設定] > [双方向オーディオ] で [半2重通信] を選択しているときは、マイクまたはスピーカーのどちらかのみが有効になります。両方をオンにすることはできません。

カメラコントロールパネル



カメラはデジタルパン／チルト／ズーム（e-PTZ）制御をサポートしています。このパネルでカメラのパン・チルト・ホーム位置への移動、ズームの調整ができます。詳細については、「PTZ 設定」（34 ページ）をご覧ください。

移動

プルダウンでプリセット位置名を選択すると、プリセット設定で記憶させた位置に移動できます。

パン・チルト操作

移動したい方向の矢印をクリックします。

■ をクリックすると、ホーム位置に戻ります。

デジタルズーム操作

■ W をクリックするとズームアウトします。■ T をクリックするとズームインします。

【パン】：ズーム表示している場合に、最大画角にあわせて自動で左右にパンします。

【停止】：自動パン、巡回を停止します。

【巡回】：プリセット設定で記憶させたプリセット位置の映像に順次移動させることができます。

ご注意

巡回表示では、選択されていない分割画面の映像も切り替わります。

パンスピード

パンの速度を設定します。

[- 5] が最も遅く、[5] が最も速く動作します。

チルトスピード

チルトの速度を設定します。

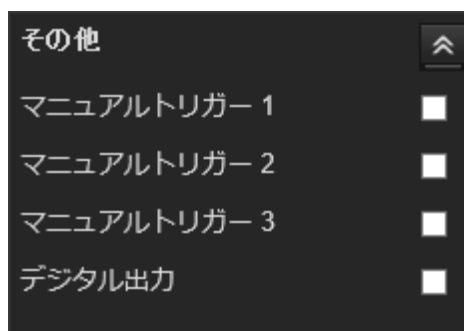
[- 5] が最も遅く、[5] が最も速く動作します。

ズームスピード

■ W または ■ T をクリックしたときのズームインまたはズームアウトの移動量を設定します。

[- 5] が最も小さく、[5] が最も大きく動作します。

その他パネル



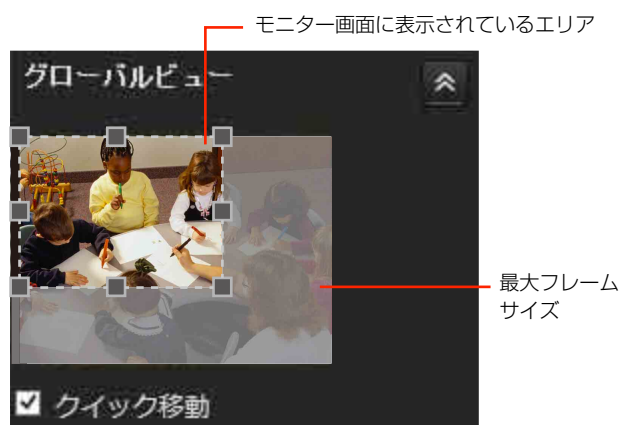
マニュアルトリガー

イベント設定でマニュアルトリガーをイベントのトリガーに設定した場合、チェックボックスを選択するとトリガーが有効になります。

デジタル出力

デジタル出力（DO）を手動でオン／オフします。

グローバルビュー



グローバルビューウィンドウが表示されます。グローバルビューウィンドウには、フルビュー画像（ビデオの最大フ

フレームサイズ)とフローティングフレーム(現在のビデオストリームの表示領域)が含まれています。フローティングフレームにより、ユーザーはe-PTZ機能(デジタルパン/チルト/ズーム)を制御できます。e-PTZ操作の詳細については、「PTZ設定」(34ページ)をご覧ください。現在のビデオストリームの表示領域の設定方法については、カメラ設定の「メディア > ビデオ」(21ページ)をご覧ください。

ご注意

フルサイズで表示している場合は、パネルのPTZボタンは機能しません。また、モニター画面にフルビューが表示されている場合、PTZボタンは機能しません。

クイック移動

「クイック移動」にチェックを入れた状態で、グローバルビューのある部分をクリックすると、クリックしたエリアに瞬時にモニター画面の位置が移動します。

クライアントの設定

この章では、ストリーム転送モードの選択方法とローカルコンピュータでの保存オプションについて説明します。このページの設定が完了したら、ページ下部の「保存」をクリックして、設定を有効にします。



H.265 / H.264 メディアオプション

映像データまたは音声データ、あるいはその両方をストリーミングするように選択します。これは、ビデオモードが H.265 または H.264 に設定されている場合に有効になります。

H.265 / H.264 プロトコルオプション

映像／音声データの通信方式を切り替えることができます。

ご注意

お使いのコンピュータでパーソナルファイアウォールソフトウェアや、アンチウイルスソフトウェアなどを使用している場合、この機能が正しく動作しないことがあります。このような場合は、該当のソフトウェアを無効にするか、または TCP モードでお使いください。

ネットワーク環境に応じて、H.265/H.264 ストリーミングには 4 つの伝送モードがあります。

[UDP ユニキャスト]：[UDP ユニキャスト] が選択されている場合には、映像／音声用の通信に RTP (Real-time Transport Protocol) 通信が採用されます。RTP はリアルタイムに映像／音声データを流すことを目的としたプロトコルです。ただし、ネットワークのトラフィックの状況により、ネットワークパケットが失われ、映像／音声为正しく再生されない場合があります。正しく再生できない場合には、[TCP] を選択してください。

[UDP マルチキャスト]：このプロトコルにより、マルチキャストに対応するルーターはすべてのクライアントにネットワークパケットを配信できます。この機能は、同時に複数のクライアントに映像を伝送しながら、カメラのネットワーク伝送負荷を軽減するのに役立ちます。ただし、カメラとコンピュータ間にマルチキャストに対応していないルーターが設置されていたり、ファイアウォールが設置されていたり

する場合には、映像／音声为正しく再生されない場合があります。正しく再生できない場合には、[TCP] または [UDP ユニキャスト] を選択してください。このプロトコルを使うときは、「ストリーミングプロトコル > RTSP」にある「常にマルチキャスト」にチェックを入れてください。

[TCP]：映像／音声用の通信に TCP 通信が採用されます。[TCP] が選択されている場合には、「ネットワーク > ストリーミングプロトコル」の「RTSP ポート」（26 ページ）で指定したポート番号から映像／音声用の通信を行います。このプロトコルはストリーミングデータの完全配信を保証するため、動画品質が向上します。ただし、リアルタイム性の効果が UDP プロトコルと比べて良くありません。

[HTTP]：[HTTP] が選択されている場合には、映像／音声用の通信に HTTP 通信が採用されます。HTTP は通常の Web ページの閲覧に使用されているプロトコルです。Web 閲覧が可能な環境であれば、HTTP ポートを選択すると、映像／音声を見たり聞いたりできます。

ご注意

- ・プロキシサーバーを経由して接続しているとき、[UDP ユニキャスト] または [UDP マルチキャスト] は選択できません。
- ・[UDP マルチキャスト] の機能を利用するには、マルチキャストストリーミングを有効にするように設定する必要があります。詳細については、「RTSP ストリーミング」（26 ページ）をご覧ください。
- ・SSL 機能を使用する場合は、[HTTP] を選択してください。
- ・映像コーデックを [JPEG] に設定した場合、接続方式は [HTTP] となります。

双方向オーディオ

半 2 重通信

音声は一度に一方から送信されます。

全 2 重通信

音声は双方向に同時に送信されます。

ローカルストリームバッファ時間

ネットワークの帯域幅が不安定な場合、ライブストリーミングがスムーズに表示されない場合があります。

このオプションを有効にした場合、ライブストリーミングはライブビューウィンドウで再生される前に数ミリ秒間 PC のキャッシュメモリに一時的に保存されます。これにより、ストリーミングをよりスムーズに見ることができます。3,000 ミリ秒を入力した場合、ストリーミングは 3 秒間遅延します。

カメラの設定

この章では、管理者によるカメラの機能の設定について説明します。

カメラの画像をモニターする方法は、「カメラの操作」(8ページ)をご覧ください。

この章では、はじめにカメラ設定メニューの設定の際の基本操作を説明し、その後、メニューの設定項目をひとつずつ説明します。

設定項目の表示について

カメラ設定メニューは、現在設定できる項目のみが濃く表示されます。薄く(グレイアウト)表示されている項目は設定できません。

カメラ設定メニューの基本操作

カメラ設定メニューでは、それぞれのユーザーの使用状態に合わせて、カメラのすべての機能を細かく設定することができます。

ビューアー画面の[カメラ設定]をクリックすると、カメラ設定メニューが表示されます。

カメラ設定メニューの設定のしかた

- 1 管理者のユーザー名とパスワードを入力し、ログインする。
ビューアー画面が表示されます。
ログインのしかたは、「Web ブラウザからカメラにアクセスする」(5ページ)をご覧ください。
- 2 メインメニューの[カメラ設定]をクリックする。
- 3 カメラ設定メニューの左側のメインメニュー名(例:システム)をクリックする。
クリックしたメニューのサブメニューが展開されます。
もう一度クリックすると、サブメニューが収納されます。

例:「メディア」メニュー



- 4 サブメニューのメニュー名をクリックする。
クリックしたメニューが表示されます。
- 5 メニュー上部のタブを選択し、タブ内の各項目の設定を行う。

例:「メディアメニュー」の「一般設定」タブ各メニューのタブと設定項目の詳細については、17ページをご覧ください。
- 6 設定が終わったら、[保存] をクリックする。
設定した内容が有効になります。

設定した内容を無効にして元の状態に戻すときは、[保存] を押さずに別のページに移動してください。

各メニューの共通ボタン

メニューには、必要に応じて以下の共通ボタンが表示されません。

保存

設定した内容を有効にするとき、クリックします。
変更せずに元の設定を呼び出すには、[保存] をクリックせずに表示を更新するか、他のページに移動してください。

メニュー全般についてのご注意

- ・メニューで設定を変更し、すぐに電源を切る場合は、30秒以上経過してからカメラの電源を切ってください。すぐに電源を切ると、変更した設定内容が保存されない場合があります。
- ・ライブビューアーで閲覧中にカメラの設定を変更しても反映されない項目があります。変更した設定内容を既に開いているライブビューアーに反映させるには、Web ブラウザの[更新] をクリックしてください。

カメラ設定メニューの構成

システム

システムメニューを表示します。(「システムメニュー」14ページ)

メディア

カメラ映像や音声に関する設定を行うメニューを表示します。(「メディアメニュー」17ページ)

ネットワーク

ネットワーク接続のための設定を行うメニューを表示します。(「ネットワークメニュー」24ページ)

セキュリティ

ログインするときのユーザーや、接続を許可するコンピューターを指定するメニューを表示します。(「セキュリティメニュー」29 ページ)

PTZ

PTZ の設定メニューを表示します。(「PTZ メニュー」34 ページ)

イベント

イベントの設定を行うメニューを表示します。(「イベントメニュー」35 ページ)

アプリケーション

カメラ内蔵の各種検出機能の設定を行うメニューを表示します。(「アプリケーションメニュー」41 ページ)

録画

録画に関する設定を行うメニューを表示します。(「録画メニュー」44 ページ)

ストレージ

SD カードやネットワークストレージに関する設定や記録の参照を行うメニューを表示します。(「ストレージメニュー」46 ページ)

システムメニュー

カメラ設定メニューの [システム] をクリックすると、システムメニューのサブメニューが表示されます。このメニューではカメラの基本設定を行います。

システム > 一般設定

カメラの一般設定を行います。



システム

LED インジケータをオフにする

カメラが動作していることを他の人に知らせたくない場合は、このオプションを選択して LED を消灯させることができます。

日付&時間

タイムゾーン：

リストから適切なタイムゾーンを選択します。夏時間ルールをアップロードする場合の詳細については、「システム > メンテナンス」の「インポート/エクスポートファイル」(16 ページ) をご覧ください。

[現在の日付と時刻を保存]：この項目をチェックすると、カメラの現在の日付と時刻を保存します。

[PC 同期]：カメラの日付/時刻をコンピューターの日付/時刻と合わせるときに選択します。

[手動設定]：カメラの日付/時刻を手動設定するときを選択します。各リストボックスから、年、月、日、時、分、秒を選択します。

[自動]：カメラの日付/時刻を NTP (Network Time Protocol) サーバーと呼ばれるタイムサーバーと同期させる場合に選択します。[自動] を選択した場合は、NTP サーバーを設定してください。

[NTP サーバー]：NTP サーバーの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。入力欄が空欄の場合は、デフォルト設定の NTP サーバーに接続します。

[アップデートの間隔]：NPT サーバーとの同期間隔を毎時、毎日、毎週、または毎月から選択します。

ご注意

低温および高温の環境では、時刻がずれやすくなります。その場合は [自動] を選択してください。

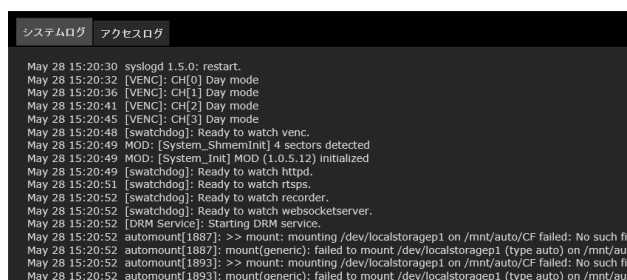
保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして、設定を有効にします。

システム > ログ

システムログとアクセスログを表示します。

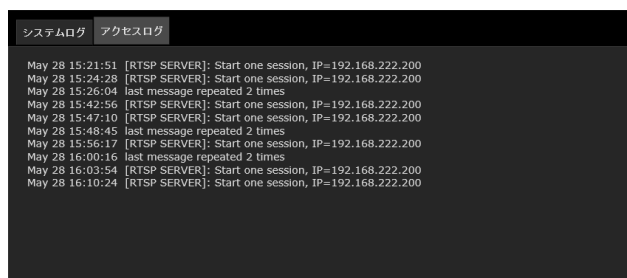
システムログ



カメラのシステムログを時系列で表示します。トラブルが発生したときに役立つ情報などが記録されます。システムログはカメラのバッファ領域に保存され、一定の限度に達すると上書きされます。

[Reload] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

アクセスログ



カメラのアクセス履歴が表示されます。アクセスログには、すべてのビューアー（オペレータと管理者を含む）のアクセス時間と IP アドレスが時系列で表示されます。アクセスログはカメラのバッファ領域に保存され、一定の限度に達すると上書きされます。

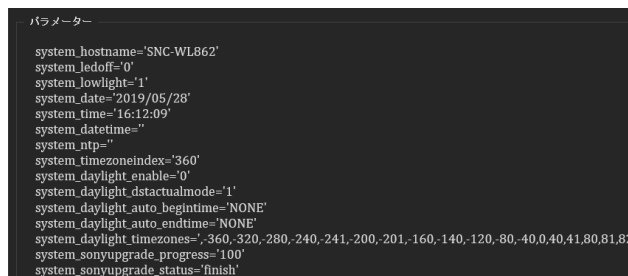
[Reload] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

システム > パラメーター

[パラメーター] ページには、システム全体のパラメーターが一覧表示されます。

補足

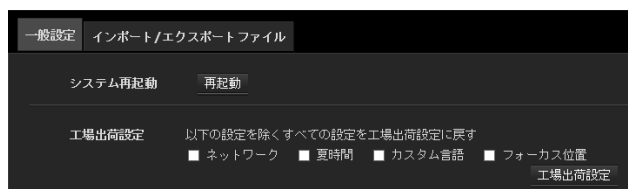
ブラウザの環境によっては表示されないことがあります。その場合は [Reload] をクリックしてください。



システム > メンテナンス

一般設定

システム再起動



強制的にシステムを再起動するときに使います。完了までに2分ほどかかります。再起動後にフォーカスを調整しますので、完了するまでお待ちください。

再起動後に接続に失敗した場合は、ブラウザのアドレス欄にカメラの IP アドレスを手動で入力して接続を再開してください。

工場出荷設定

カメラを出荷時の設定に戻すときに使います。以下のオプションが選択可能です。

[ネットワーク]：ネットワーク設定を保持します。

[夏時間]：夏時間設定を保持します。

[カスタム言語]：カスタム言語設定を保持します。

[フォーカス位置]：レンズのフォーカス位置を保持します。

どのオプションも選択されていない場合は、すべての設定が出荷時のデフォルト設定に復元されます。

[工場出荷設定] をクリックすると、カメラが自動的に再起動します。カメラが再起動するまではカメラの電源を切らないでください。

補足

カメラ本体のリセットボタンを長押し（5秒以上）することでも工場出荷時の設定に戻すことができます。

ご注意

再起動したとき、工場出荷設定に戻したときに約 40 秒間アラーム出力がオンになります。

インポート／エクスポートファイル



エクスポートファイル

この機能を使用すると、夏時間ルール、カスタム言語ファイル、設定ファイル、およびサーバー状態レポートをファイルに保存できます。

夏時間設定をエクスポート

夏時間ルールをファイルに保存するときに使います。[エクスポート] をクリックし、夏時間ルールを保存します。

言語ファイルをエクスポート

言語ファイルをファイルに保存するときに使います。[エクスポート] をクリックし、言語ファイルを保存します。

設定ファイルをエクスポート

[エクスポート] をクリックすると、デバイスとユーザーが設定したすべてのパラメーターが設定ファイルとして保存されます。

サーバー状態レポートをエクスポート

[エクスポート] をクリックすると、時刻、ログ、パラメーター、プロセスの状態、メモリーの状態、ファイルシステムの状態、ネットワークの状態など、現在のサーバーの状態レポートがファイルに保存されます。

ファイルのアップロード

夏時間ルールの更新

[参照] をクリックして、夏時間の設定ファイルを指定し、[アップロード] します。

夏時間ルールの編集方法

テキストエディタでファイルを開き、タイムゾーンを見つけてください。DST の開始時間と終了時間を設定します。完了したら、ファイルを保存します。

次の例では、DST は毎年 3 月の第 2 日曜日の午前 2:00 に始まり、11 月の第 1 日曜日の午前 2:00 に終了します。

```
.....
<DayofWeek>Sunday</DayofWeek>
<Hour>2</Hour>
</EndTime>
</TimeZone>
<TimeZone id="-240" name="(GMT-06:00) Central Time (US and Canada)">
  <StartTime>
    <Shift>60</Shift>
    <Month>3</Month>
    <Day></Day>
    <WeekinMonth>Second</WeekinMonth>
    <DayofWeek>Sunday</DayofWeek>
    <Hour>2</Hour>
  </StartTime>
  <EndTime>
    <Shift>-60</Shift>
    <Month>11</Month>
    <Day></Day>
    <WeekinMonth>First</WeekinMonth>
    <DayofWeek>Sunday</DayofWeek>
    <Hour>2</Hour>
  </EndTime>
</TimeZone>
<TimeZone id="-241" name="(GMT-06:00) Mexico City">
  <StartTime>
.....
```

カスタム言語ファイルの更新

[参照] をクリックして、独自のカスタム言語ファイルを指定し、[アップロード] をクリックします。

設定ファイルのアップロード

[参照] をクリックして、設定ファイルを選択し、更新します。カメラのファームウェアのバージョンは、設定ファイルと同じでなければなりません。カメラに固定 IP またはその他の特別な設定をしている場合は、設定ファイルを更新することはお勧めできません。

メディアメニュー

カメラ設定メニューの [メディア] をクリックすると、メディアメニューのサブメニューが展開されます。このメニューではカメラ機能の設定を行います。メディアメニューは [画像]、[ビデオ]、[オーディオ] で構成されます。

メディア > 画像

チャンネル：設定をする前にチャンネル（4つのセンサーのうちの1つ）を選択します。これら4つのセンサーは個別に設定できます。

一般設定



ビデオの設定

動画タイトル

ライブビデオのタイトル & 時刻に表示される名前を入力してください。

ビデオとスナップショットにタイムスタンプとビデオタイトルを表示する

選択すると、ライブビューにタイトルと時刻が表示されます。

イメージ上のタイムスタンプと動画タイトルの位置

タイトルと時刻をライブビューの上部または下部のどちらに表示するか選択します。

タイムスタンプと動画タイトルのフォントサイズ

タイトルと時刻の表示に使うフォントサイズを選択します。

ビデオフォント

ライブビューに表示されるタイムスタンプと動画タイトルのフォントを選択します。ツールタイプフォントを指定してください。また、指定するファイル名は小文字にしてください。

カラー

ビデオストリームの表示を白黒/カラーから選択します。

電源周波数

照明による映像のちらつき（フリッカー）を軽減するために、ご使用になる照明の電源周波数を選択します。

画像反転

[反転]：ライブビューの表示を反転します。

[回転]：ライブビューの表示を時計回りの方向に90° または270° 回転します。

回転は、反転および物理的なレンズ回転と組み合わせて、さまざまな取り付け位置に合わせることができます。

デイ/ナイト設定

ナイトモード時に B&W に切り替え

これを選択すると、ナイトモード時にカメラが自動的に内蔵の IR カットフィルターを外し、白黒画像に切り替わります。

IR カットフィルター

デイ/ナイト機能のモードを選択します。デイ/ナイト機能には次のモードがあります。

[自動モード]：通常はデイモードで動作します。暗いところでは自動的にナイトモードに切り替わります。このモードを設定した場合は、ナイトモードに切り替わる感度を設定します。

[デイモード]：常にデイモードで動作します。

[ナイトモード]：常にナイトモードで動作します。

[デジタル入力と同期]：デジタル入力（センサー入力）がアクティブの間はナイトモードになります。

[スケジュールモード]：デイ/ナイトモードをタイマーによって切り替えます。デイモードの開始時間と終了時間を設定します。

IR カットフィルターの感度

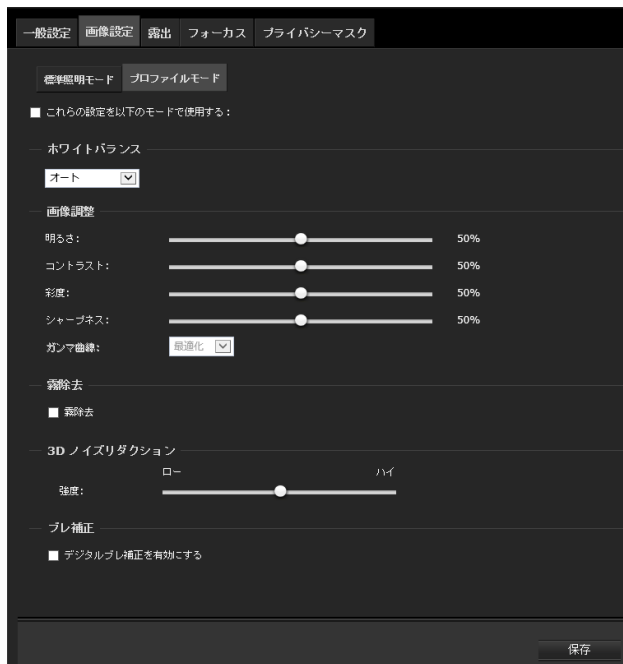
IR カットフィルターの感度をロー、標準、またはハイなど、照明条件に合わせて調整します。

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

ご注意

デイ/ナイトのモード設定を自動モードにした場合は、露出設定のプロファイルは設定できません。

画像設定



[チャンネル]：4つのチャンネル（センサー）の1つを選択します。

ホワイトバランス

ホワイトバランスモードを選択します。

[オート]：照明などの影響を受けにくく、本来の色に近い色再現を自動で調整します。

[現在の値を固定]：[On] にすると、現在のホワイトバランスに固定されます。

[手動設定]：[R ゲイン] と [B ゲイン] が設定可能になります。ゲイン値は0%～100%の範囲で調整できます。

以下の手順に従って、ホワイトバランスを最適な色温度に調整します。

- 1 レンズの前に、白または青などの寒色の色温度の紙を置き、[オート] で色温度を自動的に調整する。
- 2 [現在の値に固定] で [ON] ボタンをクリックして現在の値を確定し、ホワイトバランスの測定中に設定を確定する。

画像調整

明るさ

画像の明るさを調整します。範囲は0%から100%です。

コントラスト

画像のコントラストレベルを調整します。範囲は0%から100%です。

彩度

画像の彩度レベルを調整します。範囲は0%から100%です。

シャープネス

画像のシャープネスレベルを調整します。範囲は0%から100%です。

ガンマ曲線

画像のシャープネスレベルを調整します。範囲は0から0.45です。

画像の暗い部分と明るい部分の両方を詳細に表現するためにディスプレイで調整するか、この値を変更して高いコントラストにするか、またはより高い輝度で表示することができます。

補足

ガンマ曲線は、露出設定でWDRをオフにしたときに設定可能です。

霧除去

霧除去

霧除去は、スモッグ、霧、または煙などの悪天候下での画像の表示品質を向上させるのに役立ちます。

3D ノイズリダクション

強度

3D ノイズリダクションの強度をスライダーで選択します。この機能をビデオチャンネルに適用すると、システムの計算能力が消費されることに注意してください。

3D ノイズリダクションは、主に暗い場所で使用されます。動きの速い被写体で暗い場所で有効にすると、残像の跡が生じることがあります。その場合は、強度をローにしてください。

ブレ補正

デジタルブレ補正を有効にする

ポールマウントのときに振動が発生するなどの問題が発生した場合は、ブレ補正を有効にしてみてください。

ご注意

- ・ブレ補正を設定すると、撮影される画角が小さくなります。
- ・振動によっては、ブレ補正を設定しても補正できない場合があります。
- ・ブレ補正は、カメラ設置時に選択してください。
- ・ブレ補正を設定する前に、プライバシーマスクの位置、動体検知領域などを設定してください。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

復元

変更を確定せずに元の設定を呼び出すには、[復元] をクリックします。

プロフィールモード

プロフィールモードをクリックし、[画像設定] のすべての設定を特別な照明条件に合わせて調整することも可能です。

これらの設定を以下のモードで使用する

このプロフィールを適用するモードを選択します。ナイトモードまたはスケジュールモードが選択可能です。スケジュールモードを選択した場合は、手動で時間範囲を入力してください。次に、保存をチェックして有効にします。

露出

露出関連の設定を行います。



[チャンネル]：4つのチャンネル（センサー）の1つを選択します。

露出補正方法

露出補正用の測光ウィンドウを設定できます。

測光エリア

[全画面]：画面全体の明るさを計測し、適切な光量補正を行います。

[カスタム]：手動で明るさを計測するエリア（測光エリア）と明るさを計測しないエリア（除外エリア）を設定できます。測光エリアと除外エリアを合わせて10個まで設定できます。

[測光エリアの追加]：クリックすると測光エリアの枠が表示されます。位置やサイズを変更して測光エリアを設定します。

[除外エリアの追加]：クリックすると除外エリアの枠が表示されます。位置やサイズを変更して除外エリアを設定します。

[BLC]：逆光補正機能が有効になります。BLCを選択すると、BLCという枠が表示されます。この枠の外側に高輝度被写体がある場合、逆光補正が働きます。

[HLC]：強い光源を検出し、影響を受けた箇所を補正して全体的な画質を向上させます。たとえば、HLCはスポットライトやヘッドライトによって発生するグレアを減らすのに役立ちます。

露出制御

露出補正

リストボックスから露出補正值を選択し、自動露出設定の目標とする明るさを調整します。大きな値を設定するとより明るく、小さい値を設定すると暗くなります。

フリッカー補正

このオプションを選択すると、フリッカー補正を有効にします。照明のちらつき（フリッカー）が気になる場合に選択すると、フリッカーを軽減することができます。フリッカー補正モードで、露光時間を1/120～1/5秒に制限することができます。露光時間が1/120～1/5秒に制限されている場合、露出オーバーになる可能性があります。ライブビューで露出オーバーを発見した場合、フリッカー補正オプションを無効にしてください。

ご注意

フリッカー補正は、WDRをオフにした場合にのみ有効にできます。フリッカー補正を有効にした状態でWDRをオンにすると、フリッカー補正はチェックが入ったままですが、無効になります。

露光時間

露光時間の自動制御の範囲を設定します。スライダーを動かして最小値、最大値を決定してください。

ゲイン調整

オートゲインの範囲を設定します。スライダーを動かして最小値、最大値を決定してください。

AE 速度調整

AE 速度調整を有効にする

急激に変化する照明条件を監視する必要がある場合に、この機能を有効にします。たとえば、夜間の道路や駐車場の入り口を監視する必要がある場合、夜間に街灯が点灯している間に車が通過すると、急激な光量の変化が生じる可能性があります。

WDR（ワイドダイナミックレンジ）

WDRを有効化

コントラストの強いシーンにおいて、白とびや黒つぶれの発生を軽減させる機能です。チェックボックスを選択するとワイドダイナミックレンジ機能が有効になります。

VEを有効化 (Visibility Enhancer)

撮像シーンに応じてカメラ画像の暗い部分を明るくし、かつ明るい部分も白とびせずはっきり見えるように輝度とコントラストを自動補正します。
チェックボックスをオンにしてから、強度をスライドバーで調整することができます。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

復元

変更を確定せずに元の設定を呼び出すには、[復元] をクリックします。

プロファイルモード

ナイトモード/スケジュールモード用に別の設定を行う場合は、[プロファイル] をクリックして [プロファイル設定] ページを開きます。

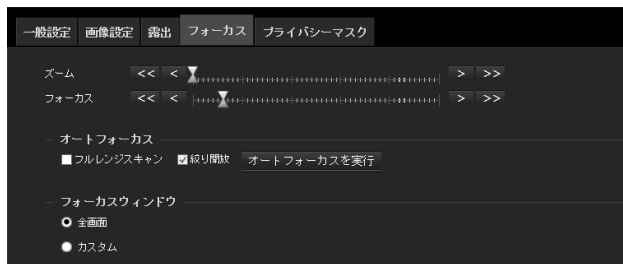
このプロファイルを適用するモードを [ナイトモード] または [スケジュールモード] から選択します。
スケジュールモードを選択した場合は、手動で時間範囲を入力してください。設定を有効にするには [保存] をクリックします。

ご注意

[IR カットフィルター] を [自動モード] に設定した場合は、プロファイルモードは使用できません。

フォーカス

フォーカスを調整します。



[チャンネル]: 4つのチャンネル (センサー) の1つを選択します。

ズーム

光学ズームの調整を行います。スライダーを移動させるか、または <<、<、>、>> をクリックすることで調整します。4つのセンサーの画角を見て最適な位置に調整してください。

フォーカス

スライダーを移動させるか、または <<、<、>、>> をクリックすることで、手動でフォーカス位置を調整します。

オートフォーカス

[フルレンジスキャン]: チェックボックスにチェックが入っている場合、カメラの焦点距離全体にわたるフルレンジスキャンには約30～80秒かかります。
チェックが入っていない場合、最適なフォーカスが発生する可能性がある範囲でスキャンします。その場合、約15～20秒かかります。

[絞り開放]: このカメラはアイリス固定のため、チェックボックスは変更できません。

[オートフォーカスを実行]: クリックすることで、オートフォーカスを行います。

フォーカスウィンドウ

[全画面] または [カスタム] フォーカスウィンドウのどちらかでフォーカス調整を実行するかを選択します。
[カスタム] を選択した場合、フォーカスウィンドウが表示されます。フォーカスウィンドウをドラッグして、画面上の目的の位置に移動することができます。また、フォーカスウィンドウのサイズを変更することも可能です。

ご注意

次のような被写体を撮影するときは、マニュアルでフォーカスを調整してください。

- ・ 白い壁など、コントラストのない被写体
- ・ ガラスごしの被写体
- ・ 横じまの多い被写体
- ・ 照明や光の反射など、強い光が当たっている被写体
- ・ 夜景など暗い背景の中に点滅する光がある被写体
- ・ 露光調整や露光補正機能で暗く設定した状況で、照明や光がある被写体

プライバシーマスク

プライバシーマスクを使用すると、配信される映像の任意の場所にプライバシーマスクをかけて映像を隠すことができます。

プライバシーマスクを設定する

以下の手順で、任意の場所にプライバシーマスクを設定することができます。

- 1 [新規] をクリックする。
マスク名を入力するためのテキストボックスが表示されます。
- 2 ウィンドウ名にプライバシーマスクの名前を入力する。
- 3 プレビュー画面上でマウスを4点クリックして、プライバシーマスクの範囲を設定する。
- 4 [プライバシーマスクを有効にする] のチェックボックスを選択する。
- 5 [保存] をクリックする。
マスクが反映されます。

ご注意

プライバシーマスクの最大数は5個です。

プライバシーマスクを消去する

プライバシーマスクを消去するには、ウィンドウ名の右側の **X** をクリックし、[保存] をクリックします。

メディア > ビデオ

ビデオストリームの設定をチャンネルごとに3つ設定できます。各ストリームに対してそれぞれ以下の設定をしてください。



[チャンネル]：設定する前にチャンネル（4つのセンサーのうちの一つ）を選択します。これらビデオ設定は、4つのチャンネル（センサー）ごとに個別に設定できます。

表示ウィンドウ

ストリーム1、2では、[表示ウィンドウ] で設定した画像サイズで表示することができます。

[表示ウィンドウ] をクリックして表示領域設定ページを開きます。このページでは、ビデオストリームのROI（関心領域）と出力画像サイズを設定できます。

たとえば、関心のある部分だけをトリミングして、ビデオストリームの送信に必要な帯域幅を節約できます。

以下の手順で表示領域の設定をしてください。

- 1 表示領域を設定したいストリームを選択する。
- 2 [モニタ領域] のドロップダウンリストから画像サイズを選択する。
- 3 表示される領域がフローティングフレーム（表示枠）で表示される。

フローティングフレームのサイズや位置をマウスで動かして、ROI を決定してください。

フローティングフレームは、ライブビューアー画面の [グローバルビュー] の表示領域と同じです。[グローバルビュー] でサイズや位置を変更することが可能です。

ご注意

ROI は「出力画像サイズ」より大きくできません。



[表示ウィンドウ] の設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にし、[終了] をクリックしてウィンドウを閉じます。選択された出力画像サイズは、すぐに各ビデオストリームの画像サイズに適用されます。その後、ライブビューウィンドウに戻り e-PTZ 機能を使用することができます。e-PTZ 機能の詳細については、34 ページをご覧ください。

[ストリーム 1、2、3] 用ビデオ設定

画像コーデック

[H.265]、[H.264] または [JPEG] を選択します。

[H.265]、[H.264] を選択した場合、RTSP プロトコルでストリーミングされます。

ご注意

ストリーム1、2、3のビットレートの設定値によっては、以下の症状が発生することがあります。

- ・映像の遅延が大きくなる。
- ・映像再生時にフレームスキップが生じる。
- ・音声途切れ途切れになる。
- ・さまざまなコマンドに対しカメラの応答が遅くなる。
- ・JPEGの場合、オーディオデータはクライアントに送信されません。

動画サイズ

カメラから配信される動画サイズを選択します。

このカメラは、448×320 ~ 2688×1920 ピクセルの範囲の画像サイズをサポートします。

ストリーム1、2では、[表示ウィンドウ] で設定した画像サイズで表示することができます。

ご注意

大きいサイズの画像では帯域幅を大きく使います。

最大フレームレート

映像の最大フレームレートを設定します。

“fps” は 1 秒間に配信されるフレーム数を示す単位です。電源周波数が 50Hz に設定されている場合、フレームレートは 1fps ~ 25fps で選択可能です。電源周波数が 60Hz に設定されている場合、フレームレートは 1fps ~ 30fps で選択可能です。

[カスタマイズ] を選択して手動で値を入力することもできます。

イントラフレーム期間

I ピクチャ間隔 ([H.265] , [H.264] を選択時)

I ピクチャー挿入間隔を秒単位で設定します。1/4 秒、1/2 秒、1 秒、2 秒、3 秒、4 秒から選択します。

時間が短いほどビデオ品質は向上しますが、ネットワーク帯域幅の使用量が増えます。

スマートストリームマネージメント

動的 I ピクチャ間隔

I ピクチャー挿入間隔を最大 10 秒まで動的に延長することで、ビデオのストリーミングに必要なビットレートを大幅に削減できます。

静的なシーンの動画をストリーミングする場合、動的 I ピクチャー間隔が広がり、帯域幅を節約できます。シーンに動きがある場合、画質を維持するために I ピクチャー間隔は自動的に短縮されます。暗い場所や夜間の状況では、ノイズのためにサイズが大きくなる可能性があるため、帯域幅節約効果も低下します。

スマート FPS

静的なシーンでは、動きが発生しない場合、古いフレームをエンコードのキューに入れます。動きが発生するとエンコードは通常に戻り、リアルタイムストリーミングが配信されます。

静的シーンからの古いフレームを使うことで、P フレームのサイズが減少し、ビットレートが削減します。

スマートコーデック

スマートコーデックは、画面上の全体または関心のない領域の画質を効果的に低下させることで、消費される帯域幅を削減します。

興味がある前景領域と背景領域のビデオ品質を手動で指定できます。

モード

[オートトラッキング] :

画面全体を関心のない領域に設定します。1 つ以上のオブジェクトがその領域内を移動すると、画面の一部のビデオ品質は通常に戻ります。動いているオブジェクトがない（ピクセルの変化がない）画面の残りの部分は、低品質のフォーマットで送信されます。

[手動設定] :

画面上に 3 つ以下の ROI ウィンドウ（関心領域、前景品質）を設定できます。ROI ウィンドウに含まれていない領域は、関心のない領域と見なされます。ROI 領域の詳細については、より高品質のビデオフォーマットで送信されます。マニュアルモードでは、関心のないエリアは内部の動きに関係なく常に低品質のフォーマットを使用して送信されます。

[ハイブリッド] :

ハイブリッドモードでは、関心のない領域に動いているオブジェクトが入ると、その周囲の領域のビデオ品質を復元します。動いているオブジェクトをカバーするために、通常のレベルに復元されます。

画質プライオリティー

スライダーを使用して、ROI（関心領域）と関心のない領域の間の品質のコントラストを調整します。

スライダーボタンを右に動かすほど、ROI 領域の画質が向上します。逆に、スライダーボタンが左にあるほど、無関心領域の画質が高くなります。

ビットレートコントロール

ビットレート指定 (CBR)

ビットレートを一定に保ちたい場合に選択します。

映像配信の 1 回線あたりの平均ビットレートを設定することができます。ビットレートを大きい値に設定すると、高画質な映像を配信することができます。

目標画質 :

5 つの選択肢から目標画質を選択します。または、カスタマイズを選択し、1 ~ 100% の数値を入力してください。

最大ビットレート :

プルダウンメニューからビットレートを選択します。ビットレートは 20kbps から 80Mbps の範囲です。

または、カスタマイズを選択し、直接ビットレートを入力します。

ビットレートは、平均または上限ビットレートになります。カメラは、設定したビットレートの範囲内でビデオストリームを配信します。

ポリシー :

[フレームレート優先] を選択した場合、カメラは 1 秒あたりのフレームレートを維持しようとしませんが、画質は低下します。

[画質優先] を選択した場合、ネットワークカメラは画質を維持するために、いくつかのビデオフレームをドロップすることがあります。

スマート画質 :

機能を有効または無効にするには、[オン] または [オフ] を選択します。スマート画質は、シーンによりフレームサイズとビットレートの消費を削減します。

・ 暗い場所でも同じ画質を保ちながら、さまざまな明るさのシーンの画質を動的に調整します。

- ・ IフレームとPフレームで異なる品質にします。
- ・ 画面を異なるセクションに分割し、それらのセクションに異なる品質値を設定します。植物が密集している領域、スクリーンウィンドウ、パターンの繰り返し（壁紙）など、複雑な画像（高周波領域）の場合、人間の目には影響が出にくいシーンの品質を下げます。

画質指定（VBR）

画質を一定に保ちたい場合を選択します。

このとき、帯域幅の利用率は予測できません。ビデオ画質は5段階、または [カスタマイズ] で指定できます。

[最大ビットレート]：画質指定（VBR）を選択した場合、転送ビットレートはこの最大ビットレートで設定した値以下に制限されます。

保存

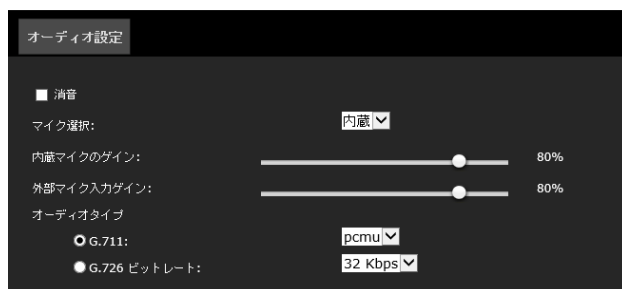
このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

メディア > オーディオ

オーディオに関する設定を行います。



消音

カメラからすべてのクライアントへの音声送信を無効にするには、このオプションを選択します。消音にした場合は、[クライアント設定] ページで音声送信が有効になっていても音声データは送信されません。

マイク選択

内蔵マイクか外部入力かを選択します。

内蔵マイクのゲイン

内蔵マイクから入力される音量レベルを設定します。設定範囲は 0% ～ 100% です。

外部マイク入力のゲイン

外部マイクから入力される音量レベルを設定します。設定範囲は 0% ～ 100% です。

オーディオタイプ

オーディオコーデックの種類を選択します。

[G.711]：G.711 は約 64Kbps を必要とします。pcm (μ -Law) または pcma (A-Law) モードを選択してください。

[G.726 ビットレート]：G.726 を選択時は、16、24、32、および 40Kbps から選択してください。

ネットワークメニュー

カメラ設定メニューの [ネットワーク] をクリックすると、ネットワークメニューのサブメニューが展開されます。このメニューではカメラのネットワーク設定を行います。

ネットワーク > 一般設定

LAN

ローカルエリアネットワーク (LAN) のネットワーク設定を行います。ネットワーク設定が完了したら、[保存] ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows the 'Network Type' (ネットワークタイプ) menu with 'LAN' selected. Under 'LAN', there are two options: 'Automatically obtain IP address' (自動的にIPアドレスを取得) and 'Use fixed IP address' (固定IPアドレスを使用). The 'Use fixed IP address' option is selected. Below this, there are input fields for: IP Address (192.168.222.73), Subnet Mask (255.255.255.0), Default Gateway (192.168.222.1), Primary DNS (192.168.222.1), Secondary DNS, Primary WINS Server, and Secondary WINS Server. At the bottom, there are two checkboxes: 'Enable UPnP presentation' (UPnP プレゼンテーションを有効にする) which is checked, and 'Enable UPnP port forwarding' (UPnPポート転送を有効にする) which is unchecked.

自動的に IP アドレスを取得

IP アドレスを DHCP サーバーから自動的に取得します。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイが自動的に割り当てられます。

ご注意

[自動的に IP アドレスを取得] を選択する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼働していることを確認してください。

固定 IP アドレスを使用

固定 IP アドレスを使用する場合、IP アドレスなどのネットワーク情報を入力してください。

[IP アドレス]：カメラの IP アドレスを入力します。

[サブネットマスク]：サブネットマスク値を入力します。

[デフォルトルーター]：デフォルトゲートウェイを入力します。

[プライマリ DNS]：プライマリ DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

[セカンダリ DNS]：セカンダリ DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

[プライマリ WINS サーバー]：プライマリ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。

[セカンダリ WINS サーバー]：セカンダリ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。

[UPnP プレゼンテーションを有効にする]：

このオプションを選択すると、カメラの UPnP プレゼンテーションが有効になり、カメラが LAN に表示されるたびに、接続されているカメラへのショートカットがコンピューターの [ネットワーク] に表示されます。ショートカットをクリックして Web ブラウザにリンクできます。

[UPnP ポート転送を有効にする]：

インターネットからカメラにアクセスするには、このオプションを選択して、カメラがルーター上のポートを自動的に開くようにし、ビデオストリームを LAN から送信できるようにします。この機能を利用するには、ルーターが UPnP をサポートしており、それがアクティブになっていることを確認してください。

IPv6

IPv6 のネットワークを設定します。

The screenshot shows the 'IPv6' configuration menu. It has a checked checkbox for 'Enable IPv6' (有効 IPv6). Below it, there is a section for 'IPv6 Information' (IPv6情報) with an unchecked checkbox for 'Manual IP address setup' (IPアドレスの手動セットアップ).

IPv6 設定を有効にするときはチェックボックスを選択します。

IPv6 アドレスを自動的に取得するときは、[IP アドレスの手動セットアップ] の選択を外します。IP アドレス、プレフィックス長、デフォルトゲートウェイが自動的に割り当てられます。

ご注意

IP アドレスを自動的に取得する場合は、IPv6 の割り当てが可能なことをネットワーク管理者にご確認ください。マルチプレフィックス環境での運用はサポートしていません。正しく通信できない可能性が有りますのでご注意ください。

IPv6 情報

IPv6 の情報を取得するには、[IPv6 情報] をクリックしてください。

Ethernet 参照

リンクローカル IPv6 アドレス / ネットワークマスク

close

[eth0 address]
2012:abcd:1234:5678:0202:d1ff:fe25:5fcc/64@Global
fe80:0000:0000:0000:0202:d1ff:fe25:5fcc/64@Link
2012:abcd:1234:5678:2c1f:4c31:ffa0:0031/128@Global

[Gateway]
fe80::2c33:8817:a835:4ca8

[DNS]
2012:abcd:1234:5678::2

リンクグローバル IPv6 アドレス / ネットワークマスク

IPv6 アドレスにリンクするには、以下の手順を行ってください。

- 1 ブラウザを開く。
- 2 ブラウザのアドレスバーにリンクグローバルまたはリンクローカル IPv6 アドレスを入力する。

メモ

アドレス形式は次のとおりです。

[http://\[2001:cf8:1:1117:0:dddd:27b8:b0ce\]/](http://[2001:cf8:1:1117:0:dddd:27b8:b0ce]/)

- 3 キーボードの [Enter] キーを押すか、Web ページの [更新] ボタンをクリックして Web ページを更新する。

ご注意

セカンダリ HTTP ポート（デフォルト値は 8080）をお使いの場合、次のアドレス形式で Web ページにリンクすることができます。詳細については、「HTTP ストリーミング」（25 ページ）をご覧ください。

IPv6 address

[http://\[2001:cf8:1:1117:0:dddd:27b8:b0ce\]/:8080](http://[2001:cf8:1:1117:0:dddd:27b8:b0ce]/:8080)

Secondary HTTP port

固定 IPv6 アドレスを設定するときは

[IP アドレスの手動セットアップ] を選択します。
[オプション IP アドレス / プレフィックス長]、[オプション デフォルトルータ]、[オプションプライマリ DNS] 欄にそれぞれの値を入力します。

[オプション IP アドレス / プレフィックス長] : カメラの IP アドレスおよびプレフィックス長の値を入力します。

[オプションデフォルトルータ] : デフォルトゲートウェイを入力します。

[オプションプライマリ DNS] : プライマリ DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

ネットワーク > ストリーミング プロトコル

HTTP ストリーミング

HTTP RTSP AUDIO

認証: basic

HTTPポート: 80

セカンダリHTTPポート: 8080

チャンネル 1

ストリーム1のアクセス名: video1s1.mjpg

ストリーム2のアクセス名: video1s2.mjpg

ストリーム3のアクセス名: video1s3.mjpg

チャンネル 2

ストリーム1のアクセス名: video2s1.mjpg

ストリーム2のアクセス名: video2s2.mjpg

ストリーム3のアクセス名: video2s3.mjpg

チャンネル 3

ストリーム1のアクセス名: video3s1.mjpg

ストリーム2のアクセス名: video3s2.mjpg

ストリーム3のアクセス名: video3s3.mjpg

チャンネル 4

ストリーム1のアクセス名: video4s1.mjpg

ストリーム2のアクセス名: video4s2.mjpg

ストリーム3のアクセス名: video4s3.mjpg

認証

HTTP ストリーミングのユーザー認証で使用する認証方式を設定します。

[basic] : ベーシック認証を使用します。

[digest] : ダイジェスト認証を使用します。

[認証モード] を変更した場合は、Web ブラウザを閉じて、アクセスし直してください。

HTTP ポート

初期設定は 80 です。他のポートに設定する場合は、1025 ~ 65535 のポート番号を入力します。

セカンダリ HTTP ポート

初期設定は 8080 です。他のポートに設定する場合は、1025 ~ 65535 のポート番号を入力します。

ストリーム 1、2、3 のアクセス名

カメラは同時に複数のストリームをサポートします。アクセス名は、さまざまなビデオストリームを識別するために使用されます。

チャンネルごとに映像ストリーム 1、2、3 のアクセス名を入力してください。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

RTSP ストリーミング

RTSP ストリーミングを利用するには、まずビデオストリームへのアクセスを制御するためのパスワードを設定したことを確認してください。詳細については、「セキュリティ > ユーザーアカウント」(29 ページ) をご覧ください。

HTTP	RTSP	AUDIO
認証:	basic	
RTSPポート:	554	
ビデオのRTPポート:	5556	
ビデオのRTCPポート:	5557	
オーディオのRTPポート:	5558	
オーディオのRTCPポート:	5559	

認証

RTSP ストリーミングのユーザー認証で使用する認証方式を設定します。

[disable] : 認証なし。

[basic] : ベーシック認証を使用します。

[digest] : ダイジェスト認証を使用します。

[認証] 方法を変更した場合は、Web ブラウザを閉じて、アクセスし直してください。

ユニキャストストリーミング設定

RTSP ポート

RTSP (Real-Time Streaming Protocol) は、ストリーミングメディアの配信を制御します。初期設定では、RTSP ポートは 554 に設定されています。

RTP ポート

RTP (Real-time Transport Protocol) は、ビデオとオーディオのデータをクライアントに配信するために使われます。初期設定では、ビデオの RTP ポートは 5556 に設定されています。ビデオ用の他にオーディオ用の RTP ポートがあります。

RTCP ポート

RTCP (Real-time Transport Control Protocol) を使用すると、カメラはネットワークのトラフィック量を監視してデータを送信できます。デフォルトでは、ビデオの RTCP ポートは 5557 に設定されています。ビデオ用の他にオーディオ用の RTCP ポートがあります。

ポートは 1025 ~ 65535 の範囲で変更可能です。RTP ポートは偶数番号を指定してください。RTCP ポートは RTP ポート番号に 1 を加えた奇数番号です。

ビデオポート番号、オーディオポート番号は異なる番号を指定してください。

ストリーム 1、2、3 のアクセス名

チャンネルごとに映像ストリーム 1、2、3 のアクセス名を入力してください。

マルチキャストストリーミング設定

各チャンネルのストリーム 1、2、3 のマルチキャスト設定を行うには、これらの項目をクリックします。

チャンネル 1	
ストリーム1のアクセス名:	live1s1.sdp
ストリーム2のアクセス名:	live1s2.sdp
ストリーム3のアクセス名:	live1s3.sdp
▼ ストリーム1のマルチキャスト設定	
■ 常にマルチキャスト	
マルチキャストグループアドレス:	239.128.1.99
マルチキャストビデオポート:	5560
マルチキャストRTCPビデオポート:	5561
マルチキャストオーディオポート:	5562
マルチキャストRTCPオーディオポート:	5563
マルチキャストTTL [1~255]:	15
▶ ストリーム2のマルチキャスト設定	
▶ ストリーム3のマルチキャスト設定	

常にマルチキャスト

マルチキャスト配信を行うには、[常にマルチキャスト] のチェックボックスを選択します。

ユニキャストビデオ伝送は、ポイントツーポイント伝送を通じてストリームを配信します。一方、マルチキャストはマルチキャストグループアドレスにストリームを送信し、マルチキャストグループアドレスからのコピーを要求することによって複数のクライアントが同時にストリームを取得できるようにします。そのため、マルチキャストを有効にすると、インターネットの帯域幅を効果的に節約できます。

マルチキャストグループアドレス

RTSP マルチキャスト配信時に使用するマルチキャストアドレスです。

マルチキャストビデオポート

マルチキャスト配信時に使用する映像データの通信ポート番号を指定します。[1024] ~ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には映像用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに1を加えた奇数番号 (RTCP ビデオポート番号) の2つのポート番号が利用されます。

マルチキャストオーディオポート

マルチキャスト配信時に使用する音声データの通信ポート番号を指定します。[1024] ~ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には音声用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに1を加えた奇数番号 (RTCP オーディオポート番号) の2つのポート番号が利用されます。

ご注意

ビデオポート番号とオーディオポート番号には異なる番号を指定してください。

マルチキャスト TTL [1 ~ 255]

マルチキャスト TTL (Time To Live) は、パケットを転送できる範囲をルーターに指示する値です。

TTL	範囲
0	同じホストに限定
1	同じサブネットワークに限定
32	同じサイトに限定
64	同じリージョンに限定
128	同じ大陸に限定
255	範囲制限なし

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

RTSP プレーヤーを使う

RTSP プレーヤーを使用してネットワークカメラにアクセスする場合は、次のコマンドを使用してストリーミングデータの送信を要求します。

```
rtsp://<ip address>:<rtsp port>/<ストリーム 1、2、3のアクセス名>
```

たとえば、ストリーム 1 のアクセス名が `live1s1.sdp` に設定されているとします。

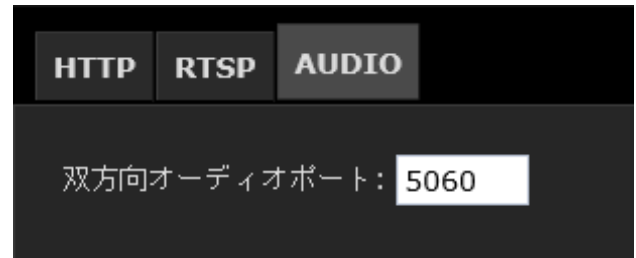
- 1 RTSP プレーヤーを起動する。
- 2 ファイル > URL を開くを選択する。
URL ダイアログボックスが表示されます。
- 3 テキストボックスに上記の URL コマンドを入力する。

4 ライブビデオがプレーヤーに表示されます。

ご注意

RTSP プレーヤーを使う場合は、ビデオモードを H.265 または H.264 に設定してください。

Audio



双方向オーディオポート

双方向オーディオポートの初期設定値は 5060 です。また、1025 ~ 65535 の範囲で変更できます。

カメラは双方向の音声通信をサポートしているため、オペレーターは音声と同時に送受信できます。カメラの内蔵または外部マイクと外部スピーカーを使用して、カメラ周辺の人とコミュニケーションをとることができます。

ご注意

動画の設定で JPEG を選択時は、音声通信は無効です。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

ネットワーク > QoS

カメラから送信される各種データトラフィックのパケットにマークを付け、QoS を制御するための設定を行います。QoS とは、ネットワーク上のさまざまなサービスに対して一定の品質を保証するリソース予約制御メカニズムのことです。特にリアルタイムストリーミングの場合や、ネットワーク帯域が不十分な場合に QoS は有効です。

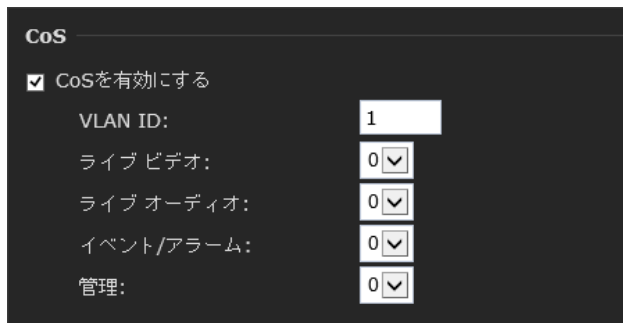
QoS の要件

- QoS を利用するには、次の要件を満たす必要があります。
- ・ ネットワーク内のすべてのネットワークスイッチとルーターが QoS をサポートしている必要があります。
 - ・ ネットワークで使用されているネットワークビデオ機器が QoS 対応である必要があります。

QoS の設定

CoS (Class of Service)

CoS は QoS の一種で、8 段階の優先度を設定することができます。CoS は VLAN を利用する際に使用できます。



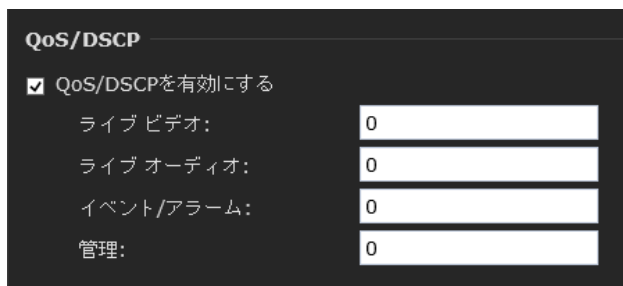
CoS を有効にする

CoS を有効にする場合は、チェックボックスを選択します。スイッチの VLAN ID (0 ~ 4095) を入力し、各アプリケーションの優先順位 0 (最低) ~ 7 (最高) を選択します。

ご注意

CoS を有効にした場合、アクセスできるのは同じ VLAN のパソコンのみとなります。

QoS / DSCP



QoS/DSCP を有効にする

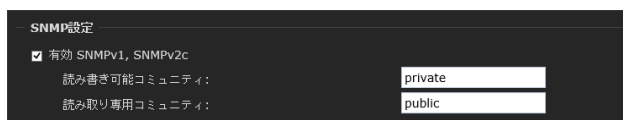
QoS/DSCP の設定を行うときは、チェックボックスを選択します。選択した場合は、各項目のデータトラフィックにマークする値 (0 ~ 63) を設定します。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

ネットワーク > SNMP

SNMP 設定



SNMPv1、SNMPv2c を有効にする

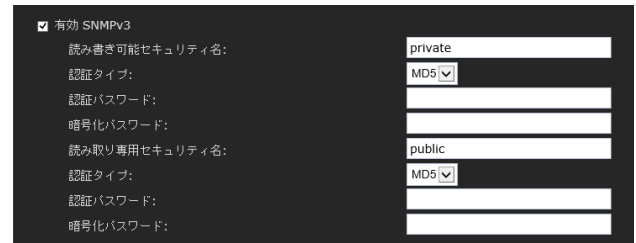
SNMPv1、SNMPv2c を有効にする場合は、チェックボックスを選択します。

読み書き可能コミュニティ

読み書き可能コミュニティの名前を入力します。

読み取り専用コミュニティ

読み出し専用コミュニティの名前を入力します。



SNMPv3 を有効にする

SNMPv3 を有効にする場合は、チェックボックスを選択します。

読み書き可能セキュリティ名

読み書き可能セキュリティの名前を入力します。

認証タイプ

認証方式を選択します。

認証パスワード

認証のためのパスワード (8 文字以上) を入力します。

暗号化パスワード

暗号化のためのパスワード (8 文字以上) を入力します。

読み取り専用セキュリティ名

読み出し専用セキュリティの名前を入力します。

認証タイプ

認証方式を選択します。

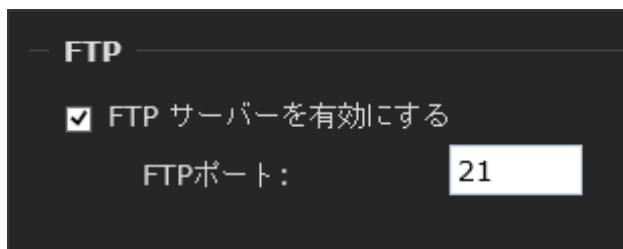
認証パスワード

認証のためのパスワード (8 文字以上) を入力します。

暗号化パスワード

暗号化のためのパスワード (8 文字以上) を入力します。

ネットワーク > FTP



FTP サーバーを有効にする

FTP サーバーを有効にする場合は、チェックボックスを選択します。

FTP サーバーを使用すると、microSD カードに録画したビデオクリップをダウンロードできます。

FTP ポート

初期設定では、FTP ポートは 21 に設定されています。FTP ポートは 1025 ～ 65535 の範囲で変更できます。

ご注意

FTP プロトコルはパスワードを平文で送信します。セキュリティを必要とする場合は、FTP は無効にしてください。

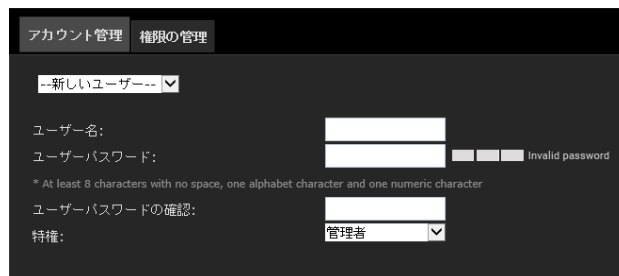
セキュリティメニュー

カメラ設定メニューの [セキュリティ] をクリックすると、セキュリティメニューのサブメニューが展開されます。

セキュリティ > ユーザーアカウント

管理者と最大 9 ユーザーのユーザー名とパスワード、および各ユーザーのビューアーモードが設定できます。

管理者は [admin] で固定です。



アカウント管理

新しいユーザーを作成するには

- 1 プルダウンメニューを開き、[新規ユーザー] を選択する。
- 2 ユーザー名とパスワードを入力する。
 - ・パスワードの確認のために、パスワード確認欄に入力したパスワードと同じ文字を再入力します。
 - ・入力可能な文字は A-Z, a-z, 0-9, !, %, -, @, _, ^, ` です。
 - ・パスワードの組み合わせの強度は右側に表示されます。
 - ・パスワードの強度が十分になるまで、英字、数字、大文字、小文字、記号の組み合わせを使用してください。
 - ・パスワードは 8 文字以上にする必要があります。
- 3 新しいユーザーアカウントの権限レベルを選択する。
[追加] をクリックして設定を有効にします。
権限レベルは以下のとおりです。

[管理者] : 全ての操作が可能です。カメラ設定のページは管理者のみが入れます。

[オペレーター] : ライブビューアー画面の操作と CGI コマンドの送信が可能です。

[ビューワー] : ライブビューアー画面の操作のみ可能です。

[アカウント管理] で、ユーザーのアクセス権を変更したり、ユーザーアカウントを削除したりすることもできます。

- 1 変更する既存のアカウントを選択する。
- 2 必要な変更を加え、[更新] または [削除] をクリックして設定を有効にする。

権限の管理

アノニマスユーザーの閲覧を許可する

このチェックボックスを選択すると、このライブビューアー以外の方法でビデオストリーミングを見る場合に、ユーザー認証が必要なくなります。

オペレーター、ビューワー

オペレーター、ビューワーそれぞれの [デジタル出力]、[PTZ コントロール] の権限を設定します。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

セキュリティ > HTTPS

SSL に関する設定を行います。この設定を行うことで、クライアント機器とカメラ間で SSL 通信を行うことができます。

HTTPS を有効にする

HTTPS (SSL) を使用する場合は、チェックボックスを選択します。

HTTPS ポート

HTTPS ポート番号を入力します。初期設定は 443 です。

モード

接続モードを選択します。

[HTTP & HTTPS] : SSL 接続と同時に HTTP 接続を行うことができます。

[HTTPS のみ] : SSL 接続のみが許可されます。

証明書

[自己証明書の作成]

[自己証明書の作成] では秘密鍵情報はカメラ内部に保管されています。証明書を外部からインストールする必要はありませんが、次の理由から SSL 機能のひとつである実在性の証明を行うことができません。

- ・カメラが生成した秘密鍵に対して自己署名を行っているため
 - ・デイスティングイッシュネーム (コモンネームなど) はあらかじめ決められた値が入っているため
 - ・お客様のシステムが信頼する CA 局によって証明書の発行が行われていないため
- セキュリティ上、動作テストなど完全なセキュリティが確保されていなくても問題ない場合に使用することを推奨します。

[証明書の要求を作成およびインストールする]

認証された証明書を使用する場合に選択します。

自己証明書の作成手順

- 1 [HTTPS を有効にする] のチェックボックスを選択する。
- 2 接続モードを選択する。
- 3 認証方法で [自己証明書の作成] を選択し、[証明書の作成] をクリックして証明書を生成する。作成された証明書情報が表示されます。証明書の詳細情報を表示するには、[証明書内容] をクリックします。
- 4 [保存] をクリックして設定を保存する。カメラが暗号化された接続に変更されます。

証明書の要求及びインストール

- 1 [HTTPS を有効にする] のチェックボックスを選択する。
- 2 接続モードを選択する。
- 3 認証方法で [証明書の要求を作成およびインストールする] を選択し、[証明書の作成] をクリックして証明書を生成する。
- 4 認証機関で認証された証明書を用意する。
- 5 [認証ファイルの選択] で [参照] ボタンをクリックし、承認された証明書を選択します。[Upload] をクリックすると選択されたファイルがカメラにアップロードされます。

ご注意

- ・ 証明書以外のファイルが選択された場合や、許可されていない形式の証明書がアップロードされた場合は、アップロード処理が無効となります。
- ・ 必ずカメラの日付と時刻を合わせた上で、本操作を行ってください。日付と時刻が合っていない場合には、ブラウザで接続できないといった問題が発生することがあります。
- ・ 自動的に暗号化された接続に変更されない場合は、[ビューアー] をクリックしてビューアー画面に戻り、アドレスバーに表示されている URL を「http://」から「https://」に変更して、キーボードの [Enter] キーを押してください。
確認メッセージが表示されますので、[OK] または [はい] をクリックして HTTPS を有効にしてください。

削除

インポートした証明書や自己証明書を削除するには、[証明書の削除] をクリックすると、カメラにインポートした証明書やセルフ署名証明書を削除します。

セキュリティ > アクセス制限

カメラにアクセスできるコンピューターを制限するセキュリティ機能を設定します。

IPv6 使用時も同様にネットワークごとにセキュリティの設定ができます。



一般設定

同時ストリーミングの最大数

同時ストリーミングの視聴最大数（ストリーム 1 からストリーム 3 を含む）を選択します。初期設定は 20 です。値を変更して [保存] をクリックすると、現在のすべての接続が切断され、自動的に再リンクが試行されます。

補足

ライブビューアーで [4 画面表示] (4 分割画面表示) を選択すると、1 つのブラウザで 4 ストリームを使用します。そのため、最大クライアント数は 5 になります。

接続管理

[接続管理] をクリックすると、現在ライブストリーミングを表示しているコンソールのみが [接続管理] リストに表示されます。

[IP アドレス]：カメラに現在アクセスしているクライアントの IP アドレス。

[経過時間]：クライアントが Web ページにアクセスしてからの経過時間。

[ユーザー ID]：クライアントがアクセスしているユーザー名が表示されます。管理者がクライアントにユーザー名とパ

スワードなしで Web ページへのリンクを許可している場合、[ユーザー ID] 列は空欄になります。

[リフレッシュ]：このボタンをクリックすると、現在のすべての接続が更新されます。

[拒否リストに追加]：接続ステータスリストからエントリーを選択し、それらを拒否リストに追加してアクセスを拒否できます。拒否リストを有効にする場合は、[アクセスリストのフィルタリングを有効にする] をオンにして、最初の列の [保存] をクリックします。

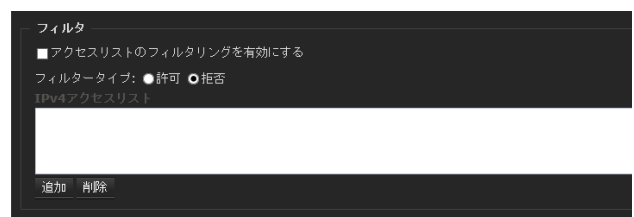
[切断する]：接続を切断したい場合は、クライアントを選択して [切断する] をクリックします。

[終了]：接続管理ウィンドウを閉じます。

フィルター

アクセスリストのフィルタリングを有効にする

アクセスリストのフィルタリングを有効にするときは、チェックボックスを選択します。



フィルタータイプ

フィルターの種類を設定します。

[許可]：アクセスリストにある IP アドレスのコンピューターのみカメラにアクセスすることが可能になります。他のコンピューターからはカメラにアクセスできません。

[拒否]：アクセスリストにある IP アドレスのコンピューターのみカメラにアクセスすることができなくなります。他のコンピューターからはカメラにアクセスできます。

アクセスリストに追加する

1 [追加] をクリックする。
別ウィンドウでフィルターアドレス画面が表示されます。

2 アクセスリストに追加する IP アドレスのルールを選択する。

[単一]：個別の IP アドレスを追加します。

[ネットワーク]：ネットワークアドレスと対応するネットワークマスクを割り当てます。ルーティングプレフィックスは CIDR 表記で書かれています。

[範囲]：IP アドレスの範囲を割り当てます。

ご注意

[範囲] は、IPv4 のみ適用されます。

アクセスリストから削除する

削除したいアクセスリストを選択し、[削除] をクリックします。

ご注意

IPv6 設定が有効でない場合、IPv6 のアクセスリストは表示されません。

管理者 IP アドレス

管理者IPアドレス

このIPアドレスにデバイスへのアクセスを常に許可する:

この IP にデバイスへのアクセスを常に許可する

この項目をチェックし、このフィールドに管理者の IP アドレスを追加することで、管理者が常にカメラに接続できるようになります。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

セキュリティ > IEEE 802.1x

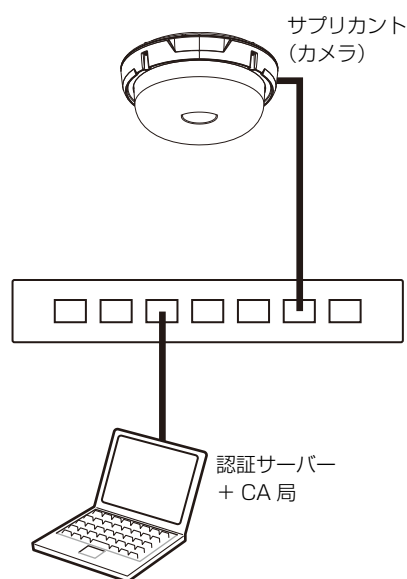
IEEE 802.1X 仕様に基づいた有線ポート認証を行うための設定を行います。

ご注意

- IEEE 802.1X 認証機能をご利用になるには、あらかじめ IEEE 802.1X 認証およびデジタル証明書に関する知識が必要です。また、IEEE 802.1X ネットワークを構築するには、オーセンティケーター、認証サーバーなどの設定が必要です。これらの設定については該当機器の取扱説明書などをご覧ください。
- IEEE 802.1X 認証機能をお使いの場合には、必ずカメラの日付と時刻を合わせたうえで、設定を行ってください。日付と時刻が合っていない場合には、ポート認証が正しく行われない場合があります。

IEEE 802.1X ネットワークのシステム構成

IEEE 802.1X ネットワークの一般的なシステム構成は次のとおりです。



サブリカント

認証サーバーと接続し、認証ネットワークに参加する機器を指します。カメラは IEEE 802.1X ネットワークにおいてサブリカントとなります。サブリカントは、認証サーバーと適切な認証を行うことによって IEEE 802.1X ネットワークに接続できます。

オーセンティケーター

サブリカントや認証サーバーから発行される要求データや返答データを相互に転送する役割を果たします。通常は、ハブやルーター、アクセスポイントがオーセンティケーターとなります。

認証サーバー

接続ユーザーのデータベースを持ち、接続しようとするサブリカントが正しいユーザーであるかどうかを確認します。RADIUS サーバーと呼ばれることもあります。

CA 局

認証サーバーの証明書 (CA 証明書) やユーザーの証明書を発行、管理します。ユーザーの認証方法に証明書を使用する場合に必要です。通常は、認証サーバー内に CA 局を構成します。

ご注意

カメラの IEEE 802.1X 認証機能は、証明書をを用いてサブリカントとサーバーの認証を行う EAP 方式をサポートしています。このため、証明書を発行する CA 局が必要となる場合があります。

IEEE 802.1X の設定

IEEE 802.1x を使用

IEEE 802.1X 認証機能を使用するときは、このチェックボックスを選択します。

EAP 方式

認証サーバーとの認証方式を選択します。カメラでは TLS、PEAP の 2 つの方式をサポートしています。

[EAP-TLS]：サブリカント、サーバー間の認証を双方とも証明書を使用して行う方式です。セキュリティの高いポート認証を実現することができます。

[EAP-PEAP]：サブリカントの認証には EAP パスワードを使用し、サーバーの認証には証明書を使用する方式です。

ユーザー名

IEEE 802.1X の認証サーバーにおいて、クライアントを特定するユーザー名を入力します。

パスワード

EAP 方式で、PEAP を選択した場合に必要なサブリカントの EAP パスワードを入力します。入力可能な文字は半角英数字で、入力可能な文字数は 50 文字以内です。

CA 証明書

信頼する CA 証明書（サーバー証明書、ルート証明書）をアップロードします。サポートされる証明書形式は PEM 形式のみです。

CA 証明書をアップロードするには

[参照 ...] をクリックして、カメラに保存したい CA 証明書を選択します。

アップロードボタンをクリックすると、選択されたファイルがカメラに転送されます。

ご注意

CA 証明書以外のファイルを選択すると、アップロード処理が無効となります。

CA 証明書を削除するには、[削除] をクリックすると選択した CA 証明書をカメラから削除します。

クライアント証明書

EAP 方式として TLS を選択した場合に、カメラ側の認証を行うために必要なクライアント証明書のインポート、内容表示、削除を行います。

クライアント証明書をアップロードするには

[参照 ...] をクリックして、アップロードしたいクライアント証明書を選択します。

アップロードボタンをクリックすると、選択されたファイルがカメラにアップロードされます。

ご注意

クライアント証明書以外のファイルを選択すると、アップロード処理が無効となります。

クライアント証明書を削除するには

[削除] をクリックすると、カメラに保存されたクライアント証明書を削除します。

クライアント秘密鍵

EAP 方式として TLS を選択した場合に、プライベートキーのアップロード、内容表示、削除を行います。

クライアント秘密鍵をアップロードするには

[参照 ...] をクリックして、アップロードしたいクライアント秘密鍵を選択します。

アップロードボタンをクリックすると、選択されたファイルがカメラにアップロードされます。

ご注意

クライアント秘密鍵以外のファイルを選択すると、アップロード処理が無効となります。

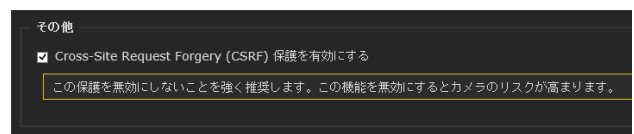
クライアント秘密鍵を削除するには

[削除] をクリックすると、カメラに保存されたクライアント秘密鍵を削除します。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

セキュリティ > その他



Cross-Site Request Forgery (CSRF) 保護を有効にする

セキュリティ保護のために、この機能は有効にすることを強く推奨します。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

PTZ メニュー

カメラ設定メニューの [PTZ] をクリックすると、PTZ 操作メニューのサブメニューが展開されます。

PTZ > PTZ

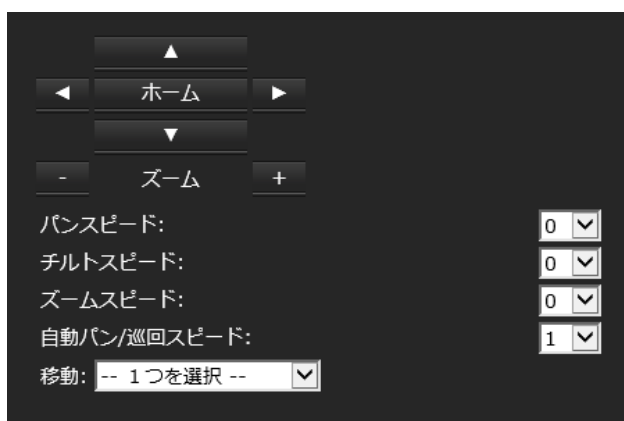
PTZ 設定

チャンネル

PTZ 設定を行うチャンネルを選択します。

ストリームの選択

プリセットまたは巡回の設定を行うストリームを選択します。



パン・チルト操作

移動したい方向の矢印をクリックします。
[ホーム] をクリックすると、ホーム位置に戻ります。

ズーム操作

[+] をクリックするとズームインします。[-] をクリックするとズームアウトします。

パンスピード

パンの速度を設定します。
[- 5] が最も遅く、[5] が最も速く動作します。

チルトスピード

チルトの速度を設定します。
[- 5] が最も遅く、[5] が最も速く動作します。

ズームスピード

ズームインまたはズームアウトの移動量を設定します。
[- 5] が最も小さく、[5] が最も大きく動作します。

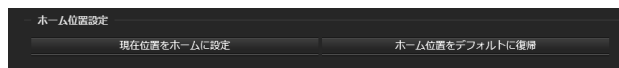
自動パン/巡回スピード

自動巡回時の速度を設定します。
[1] が最も遅く、[5] が最も速く動作します。

移動

プルダウンでプリセット位置名を選択すると、プリセット設定で記憶させた位置に移動できます。

ホーム位置設定



現在位置をホームに設定

現在の位置をホームに設定します。

ホーム位置をデフォルトに復帰

ホーム位置を初期設定に戻します。

プリセットおよび巡回設定



プリセット位置を設定するには

- 1 チャンネルとストリームを選択する。
- 2 プレビュー画面で画像を確認しながら、マウス操作で記憶させたい位置にする。
- 3 プリセットの名前を半角 40 文字以内で入力する。
- 4 [追加] をクリックし、プリセット位置を設定する。
[ユーザープリセット位置] にリスト表示されます。
(プリセット位置を追加したい場合は、手順 1～4 を繰り返してください。)

プリセット位置を削除するには

削除するプリセット位置を選択し、[削除] をクリックします。

巡回位置を設定するには

- 1 [ユーザープリセット位置] にリスト表示されているプリセット位置から、巡回させるプリセット位置を選択し、移動ボタン (>>) をクリックする。
[巡回位置] にリスト表示されます。

メモ

ツアーの移動順序は上から順番です。▲▼ ボタンで順序の変更ができます。

- 2 各プリセット位置で停止している時間 (秒) を入力します。

3 [保存] をクリックして設定を保存します。

プリセットツアーを削除するには

ツアーの移動順序にリスト表示された削除するプリセット位置を選択し、[削除] をクリックします。

その他設定

ズームファクター表示

この項目をチェックすると、ライブビューウィンドウを拡大／縮小したときに、ズーム倍率がライブビューに上に表示されます。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

イベントメニュー

カメラ設定メニューの [イベント] をクリックすると、イベントメニューのサブメニューが展開されます。

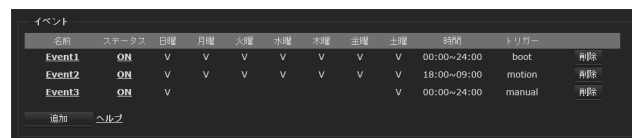
イベント設定では、特定の状況（イベント）を検出したときに、通知や録画などの対応をとるようにカメラを設定する方法について説明します。

イベント > イベント設定

設定されているイベント設定が表示されます。

新規にイベント設定を追加するには [追加] をクリックします。

イベント設定は最大で3つまで設定できます。



名前	ステータス	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	時間	トリガー	削除
Event1	ON	V	V	V	V	V	V	V	00:00~24:00	boot	削除
Event2	ON	V	V	V	V	V	V	V	18:00~09:00	motion	削除
Event3	ON	V						V	00:00~24:00	manual	削除

[名前]：イベント名が表示されます。

[ステータス]：イベントが有効か無効かが表示されます。

[日曜、月曜、火曜、水曜、木曜、金曜、土曜]：イベントが有効になる曜日に「V」が表示されます。

[時間]：イベントが有効になる時間帯が表示されます。

[トリガー]：イベントのトリガーが表示されます。

[削除]：イベント設定を削除します。

イベント設定画面



イベント名:

このイベントを有効にする

優先度:

次の動作検知またはデジタル入力検出: 秒毎に次のイベントが発出されます

1. スケジュール

イベントスケジュール

日曜 月曜 火曜 水曜 木曜 金曜 土曜

時間

常に

開始 終了 [hh:mm]

3. アクション

イベントの保存 終了

イベント名

イベント設定の名前を入力します。

このイベントを有効にする

イベント設定を有効にするには、このチェックボックスを選択します。

優先度

このイベント設定の重要度（ハイ、標準、ロー）を選択します。優先度が高い設定のイベント設定が優先的に実行されます。

次の動体検知またはデジタル入力を検出：[] 秒後に次のイベントが検出されます

動体検知、またはセンサー入力の動作後に動体検知またはセンサー入力を無効にする時間を秒単位で入力します。

イベントを設定するには

イベントを設定するためには、イベント設定画面で [スケジュール]、[トリガー]、[アクション] の各項目を設定する必要があります。

1. スケジュール

イベントが有効になる曜日、時間帯を設定します。



2. トリガー

イベントを実行するトリガーを選択します。



動体検知

動体検知を検出した場合にイベントを実行します。
[動体検知] を選択した場合は、使用する動体検知設定のウィンドウ名のチェックボックスを選択します。
この機能を有効にするには、[動体検知] の設定をする必要があります。詳細については、「アプリケーション > 動体検知」(41 ページ) をご覧ください。

メモ

使用する動体検知設定は複数選択することができます。

期間

一定期間ごとにイベントを実行します。
イベントのトリガー間隔 (1分 ~ 999分) を入力します。

デジタル入力

外部のデジタル入力デバイス、またはセンサー入力をイベント実行のトリガーとします。

[アクティブ]：センサー入力が入力の間、イベントを実行します。

[ノーマルからアクティブに移行]：センサー入力が入力状態からアクティブ状態に移行した場合にイベントを実行します。

[アクティブからノーマルに移行]：センサー入力が入力状態からノーマル状態に移行した場合にイベントを実行します。

システム起動

カメラの電源が ON になったとき、イベントを実行します。

録画通知

記録メディアがいっぱいになったとき、または録画が古いデータを上書きし始めたときに、イベント実行のトリガーとします。

音声検知

システムイベントへのトリガーとして、事前に設定されたしきい値を外部マイクで設定できます。トリガー条件は、しきい値を超える入力またはしきい値を下回る入力です。
[ノーマル]、[プロファイル] それぞれで検出するかを選択します。

カメラ妨害検知

カメラ妨害検知をイベント実行のトリガーとします。
この機能を有効にするには、[カメラ妨害検知] のチェックボックスを選択する必要があります。
詳細については、「アプリケーション > カメラ妨害検知」(42 ページ) をご覧ください。

マニュアルトリガー

ビューアー画面のマニュアルトリガー 1、2、3 のチェックボックスを設定した場合にイベントを実行します。
対応させるマニュアルトリガー番号のチェックボックスを設定します。

3. アクション

トリガーが動作しているときに、実行されるアクションを設定します。



D/Oのトリガ [] 秒

トリガーが動作しているとき、アラーム出力 (D/O) をオンにする場合、チェックボックスを選択します。また、アラーム出力がオンしている時間を秒単位で設定します。

ご注意

カメラの電源がONになったとき、再起動したとき、工場出荷設定に戻したときに、約40秒間アラーム出力がオンになります。

ネットワークが切断されると、メディアがバックアップされます

ネットワークが切断されている場合に、SDカードにメディアファイルをバックアップするには、このオプションを選択します。

この機能は、ネットワークストレージを設定した後のみ表示されます。バックアップするメディアには、イベント設定に応じてスナップショットイメージ、ビデオ、またはシステムログを選択することができます。

アクションの選択

イベントアクションを有効にする場合は、下記の手順でアクションを追加した上で、チェックボックスを選択します。

サーバーの追加

[サーバーの追加] をクリックしてサーバー設定ウィンドウを開きます。トリガーがアクティブになったときに通知メッセージをどこに送信するかを指定できます。合計5つのサーバー設定を構成できます。

電子メール、FTP、HTTP、およびネットワークストレージの4種類のサーバータイプがあります。詳細設定オプションを表示するには、項目を選択します。そのうちの1つまたはすべてを設定できます。

サーバー名

サーバー設定の名称を入力します。

サーバー名: Email

サーバータイプ

電子メール

送信者の電子メールアドレス: camera@xxx.com

受信者電子メールアドレス: recipient@xxx.com

サーバーのアドレス: xxxxxxxx

ユーザー名: user

パスワード: ●●●●●●●●

サーバーポート: 25

このサーバーはセキュアな接続が必要

FTP

HTTP

ネットワークストレージ

テスト サーバーの保存 終了

サーバータイプ

電子メール

トリガーがアクティブになったときにメディアファイルを電子メールで送信するように選択します。

[送信者の電子メールアドレス]: 送信者の電子メールアドレスを入力します。

[受信者の電子メールアドレス]: 受信者の電子メールアドレスを入力します。

[サーバーのアドレス]: メールサーバーのドメイン名またはIPアドレスを入力します。

[ユーザー名]: 必要に応じて電子メールアカウントのユーザー名を入力します。

[パスワード]: 必要に応じて電子メールアカウントのパスワードを入力します。

[サーバーポート]: デフォルトでは、メールサーバーポートは25に設定されています。別のポートを手動で設定することもできます。

[このサーバーはセキュアな接続が必要]: SMTPサーバーがセキュア接続 (SSL) を要求する場合は、このチェックボックスを選択します。

テスト

電子メール設定が正しく設定されているかどうかを確認するには、[テスト] をクリックします。結果はポップアップウィンドウに表示されます。成功した場合、結果を示す電子メールも送信されます。

サーバーの保存

[サーバーの保存] をクリックすることで設定を有効にします。

サーバーを追加した後、新しいイベントサーバーが自動的に [サーバー] リストに表示されます。他のサーバーオプションを追加したい場合は、再度 [サーバーの追加] をクリックしてください。

その後、[終了] をクリックして、設定ページを閉じます。

FTP

トリガーがアクティブになったときにメディアファイルをFTPサーバーに送信する場合に選択します。

サーバー名: FTP

サーバータイプ

電子メール

FTP

サーバーのアドレス: ftp.xxx.com

サーバーポート: 21

ユーザー名: xxx

パスワード: ●●●●●●●●

リモートフォルダ名:

パッシブモード

HTTP

ネットワークストレージ

テスト サーバーの保存 終了

[サーバーのアドレス]：FTP サーバーのドメイン名、または IP アドレスを入力します。

[サーバーポート]：デフォルトでは、FTP サーバーポートは 21 に設定されています。他のポート番号（1025 ～ 65535）にも割り当てることができます。

[ユーザー名]：FTP アカウントのログイン名を入力してください。

[パスワード]：FTP アカウントのパスワードを入力します。

[リモートフォルダ名]：メディアファイルを保存するフォルダ名を入力します。フォルダ名が存在しない場合、ネットワークカメラは自動的に FTP サーバー上にフォルダ名を作成します。

[パッシブモード]：ほとんどのファイアウォールは、外部要求から開始された新しい接続を受け入れません。FTP サーバーがパッシブモードをサポートしている場合、パッシブモードの FTP を有効にして、データ転送がファイアウォールを通過できるようにするには、このオプションを選択します。ファームウェアのデフォルトでは、パッシブモードチェックボックスが選択されています。

テスト

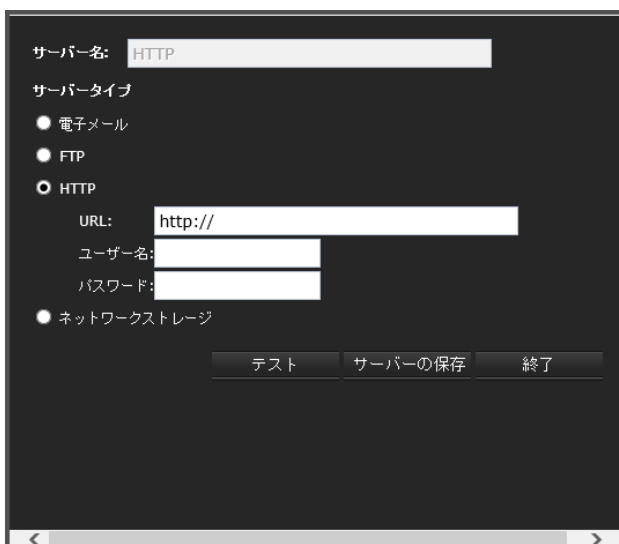
FTP 設定が正しく構成されているかどうかを確認するには、**[テスト]** をクリックします。結果はポップアップウィンドウに表示されます。成功すると、FTP サーバーに test.txt ファイルが送られます。

サーバーの保存

[サーバーの保存] をクリックして、設定を有効にします。その後、**[終了]** をクリックして、設定ページを閉じます。

HTTP

トリガーがアクティブになったときにメディアファイルを HTTP サーバーに送信する場合に選択します。



The screenshot shows a configuration window with the following fields and options:

- サーバー名:** HTTP
- サーバータイプ:** Radio buttons for 電子メール, FTP, and HTTP (selected).
- URL:** http://
- ユーザー名:** [Redacted]
- パスワード:** [Redacted]
- ネットワークストレージ:** Radio button (not selected).

At the bottom, there are three buttons: **テスト**, **サーバーの保存**, and **終了**.

[サーバー名]：サーバー設定の名前を入力します。

[URL]：HTTP サーバーの URL を入力します。

[ユーザー名]：必要に応じてユーザー名を入力します。

[パスワード]：必要に応じてパスワードを入力します。

テスト

HTTP 設定が正しく構成されているかどうかを確認するには、**[テスト]** をクリックします。結果はポップアップウィンドウに表示されます。成功すると、HTTP サーバーに test.txt ファイルが届きます。

サーバーの保存

[サーバーの保存] をクリックして、設定を有効にします。その後、**[終了]** をクリックして、設定ページを閉じます。

ネットワークストレージ

トリガーがアクティブになったときにメディアファイルをネットワークストレージに送信する場合に選択します。設定できる NAS サーバーは 1 つだけです。

[ネットワークストレージの場所]：ネットワークストレージのパスを入力します。

[ワークグループ]：ワークグループを入力します。

[ユーザー名]：ユーザー名を入力します。

[パスワード]：パスワードを入力します。

テスト

設定が正しく構成されているかどうかを確認するには、**[テスト]** をクリックします。結果はポップアップウィンドウに表示されます。成功すると、ネットワークストレージに test.txt ファイルが保存されます。

サーバーの保存

[サーバーの保存] をクリックして、設定を有効にします。その後、**[終了]** をクリックして、設定ページを閉じます。

メディアの追加

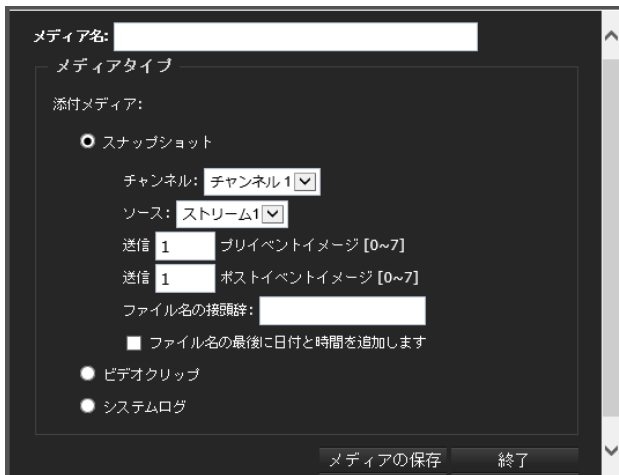
[メディアの追加] をクリックして、メディア設定ウィンドウを開きます。トリガーがアクティブになったときに送信されるメディアの種類を指定できます。合計 5 つのメディア設定を構成できます。

利用可能なメディアタイプは 3 つあります。スナップショット、ビデオクリップ、システムログです。詳細設定オプションを表示するには、項目を選択します。

メディアタイプ

スナップショット

トリガーがアクティブになったときにスナップショットを保存する場合に選択します。



The screenshot shows the 'Media Type' dialog box with 'Snapshot' selected. The 'Add Media' section has radio buttons for 'Snapshot', 'Video Clip', and 'System Log'. Under 'Snapshot', there are dropdown menus for 'Channel' (チャンネル1) and 'Source' (ストリーム1), input fields for 'Pre-event' and 'Post-event' counts (both set to 1), a text field for 'File Name Prefix', and a checked checkbox for 'Add date and time to the end of the file name'. At the bottom are 'Save Media' and 'End' buttons.

【メディア名】：メディア設定の名前を入力します。

【チャンネル】：チャンネルを選択します。

【ソース】：任意のビデオストリームからスナップショットを作成する場合に選択します。

【送信 プリイベントイメージ】：トリガー発生前の画像を送ります。カメラには、一定の限度までデータを一時的に保持するためのバッファがあります。トリガーが発生する前に何枚の画像をキャプチャーするか、数値を入力します。最大7つの画像を生成できます。

【送信 ポストイベントイメージ】：トリガーが発生した後に何枚の画像をキャプチャーするか、数値を入力します。最大7つの画像を生成できます。

たとえば、イベント前送信画像とイベント後送信画像の両方が7に設定されている場合、トリガーがアクティブになった後に合計15枚の画像を生成できます。

【ファイル名の接頭辞】：ファイル名の前に追加するテキストを入力してください。

【ファイル名の最後に日付と時間を追加します】：ファイル名に日付/時刻を追加する場合は、チェックボックスを選択します。

メモ

静止画は1秒ごとに1枚保存されます。

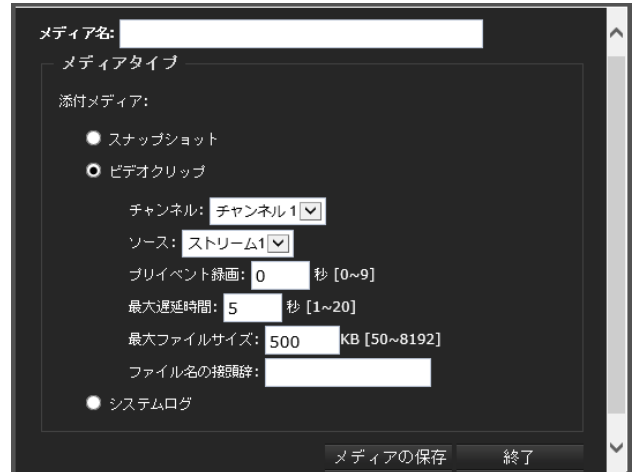
メディアの保存

このページの設定が完了したら、[メディアの保存] をクリックして設定を有効にします。

その後、[終了] をクリックして、設定ページを閉じます。

ビデオクリップ

トリガーがアクティブになったときにビデオクリップを保存する場合に選択します。



The screenshot shows the 'Media Type' dialog box with 'Video Clip' selected. The 'Add Media' section has radio buttons for 'Snapshot', 'Video Clip', and 'System Log'. Under 'Video Clip', there are dropdown menus for 'Channel' (チャンネル1) and 'Source' (ストリーム1), input fields for 'Pre-event recording' (0 seconds), 'Maximum delay time' (5 seconds), and 'Maximum file size' (500 KB). There is also a text field for 'File Name Prefix'. At the bottom are 'Save Media' and 'End' buttons.

【メディア名】：メディア設定の名前を入力します。

【チャンネル】：チャンネルを選択します。

【ソース】：ビデオクリップを作成する映像を、映像1～3から選択します。

【プリイベント録画】：トリガーが発生した場合に、トリガーが発生する前の映像を録画できます。最大9秒まで設定できます。

【最大遅延時間】：トリガーが発生した場合に、トリガーが発生した後の映像の録画時間を入力します。期間は最大20秒です。

たとえば、イベント前の録画が5秒に設定され、最大録画時間が10秒に設定されている場合、カメラはトリガーが有効になってからさらに4秒間録画を続け、合計10秒間の録画をします。

【最大ファイルサイズ】：録画データの最大ファイルサイズ(50KB～8192KB)を入力します。

【ファイル名の接頭辞】：ファイル名の前に追加するテキストを入力してください。

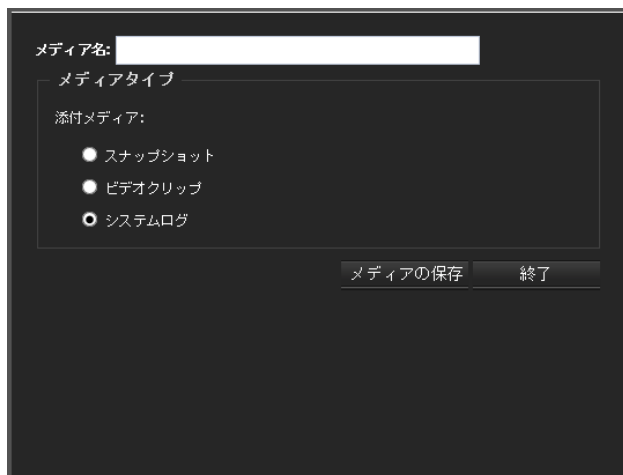
メディアの保存

このページの設定が完了したら、[メディアの保存] をクリックして、設定を有効にします。

その後、[終了] をクリックして、設定ページを閉じます。

システムログ

システムログを保存する場合に選択します。



メディアの保存

このページの設定が完了したら、[メディアの保存] をクリックして設定を有効にします。
その後、[終了] をクリックして、設定ページを閉じます。

アクションの確認



SDの検査

[SDの検査] をクリックして、SDカードをテストします。
システムは結果を成功または失敗として示すメッセージを表示します。SDカードをローカルストレージに使用する場合は、使用前にフォーマットしてください。

表示

[表示] ボタンをクリックすると、ファイル一覧ウィンドウが開きます。この機能はSDカードとネットワークストレージ専用です。
SDカードの [表示] ボタンをクリックすると、SDカードに記録されているファイルを管理できるように [ローカルストレージ] ページが表示されます。ローカルストレージの詳細については、(47 ページ) をご覧ください。

イベントの保存

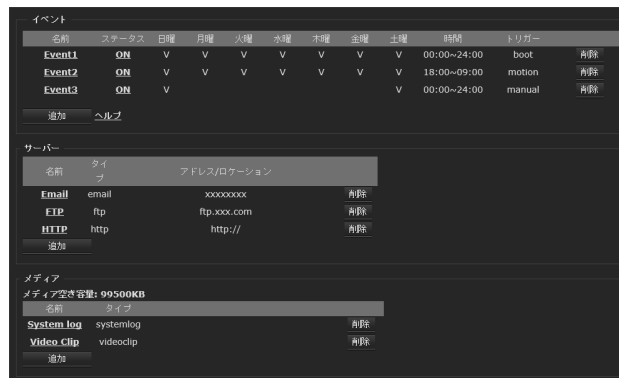
このページの設定が完了したら、[イベントの保存] をクリックして設定を有効にします。

終了

その後、[終了] をクリックして、設定ページを閉じます。

イベント設定のオン/オフ

[イベント設定] では、設定したサーバーとメディアが一覧表示されます。イベントトリガーアクションを有効にするために、イベントの [Status] が ON と表示されることを確認してください。



名前	ステータス	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	時間	トリガー
Event1	ON	V	V	V	V	V	V	V	00:00~24:00	boot
Event2	ON	V	V	V	V	V	V	V	18:00~09:00	motion
Event3	ON	V						V	00:00~24:00	manual

名前	タイプ	アドレス/ロケーション	
Email	email	xxxxxxx	削除
FTP	ftp	ftp.xxx.com	削除
HTTP	http	http://	削除

名前	タイプ	
System log	systemlog	削除
Video Clip	videoclip	削除

イベントトリガーを停止したい場合は、ON ボタンをクリックしてオフにするか、[削除] ボタンをクリックしてイベント設定を削除します。

リストからサーバー設定、メディア設定を削除するには、サーバー名、メディア名を選択して [削除] をクリックします。サーバー設定、メディア設定は、既存のイベント設定に適用されていない場合にのみ削除できます。

アプリケーションメニュー

カメラ設定メニューの [アプリケーション] をクリックすると、アプリケーションメニューのサブメニューが展開されます。

アプリケーション > 動体検知

動体検知では、現在撮影中の画面上で動体物を検出したときにアラームを発生させて知らせます。

最大で5つの動体検知ウィンドウを設定することができます。



チャンネル

動体検知の設定を行うチャンネルを選択します。

動体検知を有効にする

動体検知を有効にする場合は、チェックボックスを選択します。

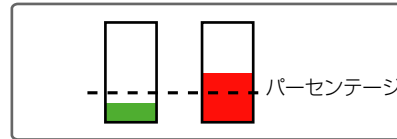
動体検知ウィンドウを設定するには

- 1 [新規] をクリックする。
- 2 [ウィンドウ名] に動体検知ウィンドウの名前を入力する。
- 3 プレビュー画面上で、マウスで4点クリックし領域を設定する。動体検知エリアのサイズを変更するには、4つの頂点のどれかをドラッグしてください。
- 4 スライダーで [アイテムのサイズ]、[感度] を設定する。
【アイテムのサイズ】：[アイテムのサイズ] のスライダーをドラッグして、アラームをトリガーする動体の最小サイズを変更します。
【感度】：[感度] のスライダーをドラッグして、動体を検知する感度を設定します。
- 5 [動体検知を有効にする] のチェックボックスを選択する。

- 6 [保存] をクリックして設定を有効にする。

メモ

インジケーターで動体検出の状態を確認することができます。
[パーセンテージ] で設定したしきい値を超えている場合は赤色、超えていない場合は緑色で表示されます。



ウィンドウを削除するには、ウィンドウ名の × マークをクリックします。

ご注意

感度が高いと急激な光の変化（デイ/ナイトモードの切り替え、ライトのオン/オフなど）などで誤検知が発生しやすくなります。

動体検知するには、動きが0.3秒以上持続しなければなりません。

プロファイルモード

プロファイルモードで動体検知を設定する場合は、[プロファイルモード] タブで動体検知の設定をします。

以下の手順に従ってプロファイルを設定してください。

- 1 新しい動体検知ウィンドウを作成する。
- 2 [このプロファイルを有効にする] チェックボックスをオンにする。
- 3 該当するモードを選択する。デイモード、ナイトモード、またはスケジュールモード。スケジュールモードを選択した場合は、手動で時間範囲を入力してください。
- 4 [保存] をクリックして設定を有効にし、[閉じる] をクリックしてページを閉じる。

この動体検知ウィンドウは、[イベント設定] ページにも表示されます。イベント > イベント設定 > トリガーの順に選択して、トリガソースとして選択することができます。

アプリケーション > デジタル入出力

カメラのデジタル入力（センサー入力）端子に入力される信号を検出する方向、デジタル出力（アラーム出力）から出力される信号の極性を設定します。

デジタル入力	
通常の状態:	<input type="radio"/> ハイ <input type="radio"/> ロー
現在の状態:	ハイ
デジタル出力	
通常の状態:	<input type="radio"/> オープン <input type="radio"/> 接地
現在の状態:	オープン

デジタル入力

通常の状態

デジタル入力の通常ステータスとして、[ハイ] か [ロー] を選択します。

現在の状態

カメラのデジタル入力ピンの現在の外部機器との接続状態を検出します。

デジタル出力

通常の状態

デジタル出力の通常ステータスとして、[オープン] か [接地] を選択します。

現在の状態

カメラのデジタル出力ピンの現在の状態を表示します。

デジタル入力（DI）イベントソースとして設定します。イベント > イベント設定 > トリガーの順に選択して、トリガーソースとして選択することができます。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

アプリケーション > カメラ妨害検知

カメラの妨害検知を設定します。

チャンネル: 1	
カメラ妨害検知	
<input type="checkbox"/> カメラ妨害検知	
トリガー期間	10 秒 [10~600]
トリガー閾値	12 [0~100]
<input type="checkbox"/> 暗すぎる画像の検出	
トリガー期間	2 秒 [1~10]
トリガー閾値	15 [0~100]
<input type="checkbox"/> 明るすぎる画像の検出	
トリガー期間	2 秒 [1~10]
トリガー閾値	15 [0~100]
<input type="checkbox"/> 不鮮明な画像の検出	
トリガー期間	10 秒 [1~10]
トリガー閾値	13 [0~100]

チャンネル

カメラ妨害検知の設定を行うチャンネルを選択します。

カメラ妨害検知

以下の4つの検出パターンごとに設定値を入力します。

[カメラ妨害検知]

[暗すぎる画像の検出]

[明るすぎる画像の検出]

[不鮮明な画像の検出]

カメラ妨害検知機能は、以下の手順で設定します。

- 1 妨害検知のトリガー期間を入力する。(10秒～10分)アラームは、改ざん率（現在のフレームと事前に保存された背景との差）がトリガーしきい値を超えた場合にのみトリガーされます。
- 2 トリガーしきい値を入力する。値は、シーン全体のピクセル差の割合（%）です。
- 3 イベント > イベント設定 > トリガーで、イベントソースを [カメラ妨害検知] として設定する。

ご注意

風による振動などの誤検出を避けるようにトリガーしきい値を入力してください。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

アプリケーション > 音声検知

音声検知を設定します。

事前に設定されたアラームレベルを超えたとき、または下回ったときに音声検知アラームをトリガーします。



音声検知を設定するには

音声検知機能は以下の手順で設定します。

- 1 音声検知ウィンドウが開くと、現在の音声入力に黄色の波形でインタラクティブに表示される。
- 2 マウスを使用して、左側のアラームレベルのスライドバーを適切な場所にドラッグする。
- 3 [音声検知を有効にする] チェックボックスを選択し、[保存] をクリックして機能を有効にする。

ご注意

- ・ 波形の縦軸の単位 (0 ~ 100) はカメラ内部の計算値であり、デシベル (dB) ではありません。
- ・ この機能を設定するには、メディア > オーディオで、オーディオを消音にしないでください。

プロファイル

プロファイルウィンドウを使用して、別の音声検知設定を構成できます。たとえば、場所は日中は騒々しく、夜は非常に静かになることがあります。

- 1 [本プロファイルを有効化] チェックボックスをクリックする。
- 2 マウスを使用して、アラームレベルのスライドバーを適切な場所にドラッグする。
- 3 ナイトモードまたはスケジュールモードから、適用するモードを選択する。スケジュールモードでは、このプロファイルが有効になる期間を手動で設定することもできます。
- 4 [保存] をクリックし、次に [終了] をクリックして設定を完了します。

ご注意

- ・ アラームレベルと受信音量が波形図の20%の範囲内に設定されていると、頻繁にアラームが動作します。アラームレベルを検知された音声レベルからさらに離して設定することをお勧めします。
- ・ 音声検知を有効にするには、ビデオストリーム # 1 を JPEG に設定しないでください。

保存

このページの設定が完了したら、[保存] をクリックして設定を有効にします。

録画メニュー

カメラ設定メニューの「録画」をクリックすると、録画メニューのサブメニューが展開されます。

録画メニューは「録画設定」で構成されます。

録画 > 録画設定

設定されている録画設定が表示されます。



名前

録画エントリー名が表示されます。

ステータス

録画設定が有効か無効かが表示されます。

日曜、月曜、火曜、水曜、木曜、金曜、土曜

録画設定が有効になる曜日に「V」が表示されます。

時間

録画設定が有効になる時間帯が表示されます。

チャンネル

チャンネルが表示されます。

ソース

録画する映像（ストリーム1～3）が表示されます。

保存先

録画ファイルの保存先が表示されます。

削除

録画設定を削除します。

録画設定を設定するには

イベントを追加するには「追加」をクリックします。

録画設定は最大で2つまで設定できます。



録画エントリー名

録画設定の名前を入力します。

この記録を有効にする

イベントの設定を有効にするには、このチェックボックスを選択します。

録画時のフレームレート制御を有効化

このオプションを選択すると、アラームトリガーに従ってフレームレートコントロールが有効になります。

フレームコントロールは、アラームが作動したときに、フレームレートが「メディア > ビデオ」(21 ページ) で設定した値まで引き上げられることを意味します。

最適化録画を有効にした場合、カメラでイベントがトリガーされたときのみ、サーバーはフルフレームレートのストリーミングデータを記録します。それ以外の場合は、通常のモニタリング中にIフレームデータのみを要求するため、帯域幅とストレージスペースを効果的に節約できます。

メモ

- ・最適化録画を有効にするには、動体検知、デジタル入力 (DI) のデバイス、手動トリガーなどのトリガーを設定してください。
- ・アラームが発生していない場合
 - － JPEG：毎秒1フレームを記録します。
 - － H.265 / H.264：Iフレームのみを記録します。
- ・ビデオ設定ページでIピクチャー間隔が1秒以上の場合、最適化録画が有効になっているとカメラは強制的にIピクチャー間隔を1sに減少させます。

[プリイベント録画]：トリガーが発生した場合に、トリガーが発生する前の映像を録画できます。最大9秒まで設定できます。

[ポストイベント録画]：トリガーが発生した場合に、トリガーが発生した後の映像を録画できます。最大10秒まで設定できます。

優先度

この録画設定の重要度（高い、普通、低い）を選択します。優先度が高い設定のイベント設定が優先的に実行されます。

チャンネル

チャンネルを選択します。

ソース

録画する映像（ストリーム 1～3）を選択します。

メモ

録画通知を有効にするには、まずイベント設定を設定してください。

以下の手順に従って録画を設定します。

1. トリガー

録画設定を実行するトリガーを選択します。

スケジュール

録画設定が有効になる曜日、時間帯を設定します。

ネットワークエラー

ネットワークに障がいが発生したときに録画設定を有効にする場合に選択します。

2. 保存先

録画ファイルを保存する保存先の設定を行います。

保存先

録画ファイルを保存する保存先です。

SD カードまたはネットワークストレージ（NAS）を選択できます。NAS サーバーを設定していない場合は、[NAS サーバーの追加] で NAS の情報を入力してください。

録画ファイル管理

最大録画時間：[1. トリガー] で設定したトリガーが動作したときの最大録画時間（1分～60分）を入力します。

最大ファイルサイズ：[1. トリガー] で設定したトリガーが動作したときの最大ファイルサイズ（100MB～2000MB）を入力します。

ファイル名の接頭語：ファイル名の前に付加するテキストを入力します。

録画設定を有効にする

録画設定のページで [この記録を有効にする] を選択します。[保存] をクリックして設定を有効にし、[終了] をクリックしてこのページを終了します。

システムが録画を開始すると、録画したファイルをネットワークストレージに送信します。下に示すように、新しい記録が録画ページのリストに表示されます。

名前	ステータス	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	時間	チャンネル	ソース	保存先	削除
Rec1	ON	V	V	V	V	V	V	V	09:00~18:00	channel1	stream1	SD	削除
Rec2	ON	V	V	V	V	V	V	V	00:00~24:00	channel1	stream1	SD	削除

追加 SDの検索

メモ：録画設定の前に、ネットワークストレージを設定できます。経由：NASサーバーページ

リストから記録設定を削除するには、リストから記録名を選択して、[削除] をクリックします。

[Rec1（録画設定名）]：クリックすると録画設定ページが開きます。

[ON（ステータス）]：クリックするとステータスが OFF になり、録画が停止します。

[SD（保存先）]：下に示すように録画のファイルリストが開きます。

検索

デバイスターゲット

すべてのデバイス SD nas

トリガーの種類

バックアップ システム起動 デジタル入力 モーション

ネットワークエラー 録画通知 期間 カメラ

マニュアルトリガー 音声検知

メディアタイプ

ビデオクリップ スナップショット テキスト

時間

次の期時選んで検索 1 分 時間 日 週間

開始: 2019/05/22 02:51 PM

終了: 2019/05/29 02:51 PM

検索結果

名前	device	トリガーの種類	開始時間	終了時間
----	--------	---------	------	------

10

ダウンロード ロック/ロック解除 JPEGからAVI 削除

ストレージメニュー

カメラ設定メニューの [ストレージ] をクリックすると、ストレージメニューのサブメニューが展開されます。ストレージメニューは [ストレージ管理]、[コンテンツマネージメント] で構成されます。

ご注意

- ・ 動画、静止画の記録中は、メインビューアーのモニター画像のフレームレートや操作性が低下する場合があります。
- ・ 実際に記録される静止画の間隔は、設定した間隔より長くなる場合があります。
- ・ microSD カードが入った状態でカメラの電源を切るときは、記録動作を停止してください。
- ・ カードを抜き差しするときは記録を停止し、カメラの電源が切れている状態で行ってください。
- ・ microSD カードの寿命は限られています。SD カードを定期的に交換する必要があります。
- ・ microSD カード内のフォルダー名を変更しないでください。

ストレージ > ストレージ管理

microSD カードや NAS などのストレージのステータスを表示したり、設定をしたりします。

SD カード管理



SD カード状態

- [SD カード状態]** : SD カードの状態を表示します。
- [合計サイズ]** : 全容量のサイズを表示します。
- [使用領域]** : 使用済みのサイズを表示します。

SD カードフォーマット

micro SD カードのフォーマット (初期化) を行います。ファイルシステムを [Ext4]、[FAT32] から選択してください。Ext4 は 32GB を超える microSD カードに適用されます。[フォーマット] をクリックすると、初期化が始まります。microSD カード中に保存されているファイルやフォルダーは消去されます。

ご注意

- ・ microSD カードを初めて使用するときは、microSD カードを [フォーマット] で初期化してください。
- ・ microSD カードが挿入されていない状態で [フォーマット] の操作を行わないでください。
- ・ Ext4 でフォーマットされた microSD カードは、Windows コンピューターからは操作ができなくなります。

SD カードコントロール

最小予約ストレージ領域

SD カードで書き込みを行わずに空けておく容量を % で入力します。

繰り返し記録を有効にする

繰り返し録画を有効にする場合は、この項目をチェックします。最大容量に達すると、最も古いファイルが最新のファイルで上書きされます。

自動ディスククリーンアップを有効にする

この項目をチェックし、ファイルを保持したい日数を入力します。たとえば、[7] 日間と入力すると、記録されたファイルは 7 日間 SD カードに保存されます。

保存

[保存] をクリックして設定を有効にします。

NAS 管理



NAS ステータス

- [NAS ステータス]** : NAS の状態を表示します。
- [合計サイズ]** : 全容量のサイズを表示します。
- [使用領域]** : 使用済みのサイズを表示します。

NAS セットアップ

ネットワークストレージの場所

ネットワークストレージのパスを入力します。
(For example: \\my_nas\disk\folder)

- [ワークグループ]** : ワークグループを入力します。
- [ユーザー名]** : ユーザー名を入力します。

[パスワード]：パスワードを入力します。

テスト

[テスト] をクリックして設定を確認します。結果はポップアップウィンドウに表示されます。

Mount

ネットワークストレージに接続します。

Unmount

ネットワークストレージの接続を解除します。

NAS コントロール

最小予約ストレージ領域

ネットワークストレージで書き込みを行わずに空けておく容量を % で入力します。

繰り返し記録を有効にする

繰り返し録画を有効にする場合は、この項目をチェックします。最大容量に達すると、最も古いファイルが最新のファイルで上書きされます。

自動ディスククリーンアップを有効にする

この項目をチェックし、ファイルを保持したい日数を入力します。たとえば、[7] 日間と入力すると、記録されたファイルは7日間 NAS に保存されます。

[保存]

[保存] をクリックして設定を有効にします。

ストレージ > コンテツツマネー ジメント

録画データを検索し、検索結果を表示できます。

検索

記録されたデータの検索基準を設定できます。

検索

デバイスターゲット

すべてのデバイス SD nas

トリガーの種類

バックアップ システム起動 デジタル入力 モーション
 ネットワークエラー 録画通知 期間 カメラ妨害検知
 マニュアルトリガー 音声検知

メディアタイプ

ビデオクリップ スナップショット テキスト

時間

次の理解通って検索 1 分 時間 日 週間

開始: 2019/05/21 06 : 30 PM
終了: 2019/05/28 06 : 30 PM

検索

検索結果

名前	device	トリガーの種類	開始時間	終了時間
----	--------	---------	------	------

10

ダウンロード ロック/ロック解除 JPEG/JPG-AVI 削除

デバイスターゲット

[すべてのデバイス]：全てのデバイスから検索します。

[SD]：microSD カードに録画されたデータを検索します。

[NAS]：NAS に録画されたデータを検索します。

トリガーの種類

検索条件としてトリガーの種類を選択します。

メディアタイプ

検索条件としてメディアの種類を選択します。

時間

特定の時点で作成されたコンテンツを検索する時間範囲を手動で入力します。

検索

検索をクリックすると、検索条件に対応する記録データが検索結果ウィンドウに表示されます。

条件を選択せずに [検索] ボタンをクリックすると、記録されたすべてのデータが [検索結果] に表示されます。

検索結果

検索結果が表示されます。録画名、トリガータイプ、開始時間、終了時間の列が表示されます。タイトルをクリックして検索結果をどちらかの方向にソートできます。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	名前	device	トリガーの種類	開始時間	終了時間
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	recording	SD		今日 午後 1時0分	今日 午後 2時5分
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	recording	SD		今日 午後 1時0分	今日 午後 2時5分

再生

選択したアイテムをクリックするとコンテンツが再生されます。再生ウィンドウは一番上に表示されます。

ダウンロード

チェックボックスでダウンロードするファイルを選択します。次に、ダウンロードボタンをクリックすると、ファイルダウンロードウィンドウがポップアップしてファイルを保存します。

ロック／ロック解除

チェックボックスを選択してから、ファイルをロックします。ロックしたファイルは Locked になり、繰り返し録画中でも削除されません。ロックを解除するには、もう一度クリックします。

JPEG から AVI

この機能は、スナップショットなどの JPEG 形式のファイルにのみ適用されます。リストからいくつかのスナップショットを選択してから、このボタンをクリックします。選択された複数のスナップショットが AVI ファイルに変換されます。

削除

チェックボックスを選択して、[削除] ボタンをクリックし、ファイルを削除します。

用語集

キャプチャー

映像機器から映像や音声をデジタルデータに変換してコンピュータの中に取り込むこと。

コーデック (Codec)

映像や音声データを圧縮・伸張するソフトウェアおよびハードウェアのこと。

コントラスト

映像の黒い部分から白い部分までの階調のこと。

サブネットマスク

ネットワークを識別するため、IP アドレスのうち、上位の何ビットをネットワークアドレスに使用するかを定める 32 ビットの数値。

彩度

色のあざやかさの度合。

鮮鋭度 (シャープネス)

隣り合った 2 つの部分の境界がどの程度明瞭に区別できるかの度合い。

セカンダリー DNS サーバー

DNS サーバーの一種で、プライマリ DNS サーバーが利用できないときに処理を肩代わりするサーバー。

デジタル証明書

暗号を解除するための公開鍵の発行元が真正であることを証明するために、認証局が発行する電子証明書。

デフォルトゲートウェイ

所属するネットワークから他のネットワークへアクセスするときに経由する機器。

ネットワークアドレス

IP アドレスのうち、ローカルのネットワーク (サブネット) を識別するのに使われる部分。

ビットレート

データを転送するときの速度。

プライマリー DNS サーバー

DNS サーバーの一種で、各機器や他の DNS サーバーからの問い合わせを優先的に処理するサーバー。

フレームレート

1 秒間に伝送できる動画のフレーム数。

プロキシサーバー

内部のネットワークとインターネットの間であって、直接インターネットに接続できない内部のネットワークのコンピュータに代わって、インターネットへの接続を行なう機器またはソフトウェア。

マルチキャスト

224.0.0.0 から 239.255.255.255 の範囲で割り当てられるクラス D の IP アドレスで、このアドレスを使用することによって、複数の機器に対して同じデータを送信することができる。

ユニキャスト

ネットワーク内で単一のアドレスを指定して特定の機器にデータを送信すること。

ActiveX コントロール

Microsoft 社が開発したソフトウェアの部品化技術。Web ページまたはその他のアプリケーションに挿入できるコンポーネントまたはオブジェクト。

CBR

Constant Bit Rate control の略です。本設定を選択すると、カメラはできるだけビットレートを一定に保つように動作を行う。

DHCP サーバー

Dynamic Host Configuration Protocol Server の略。固定の IP アドレスを持たない端末に、自動的に IP アドレスを振り分けるプロトコル (DHCP) を使用して、IP アドレスを割り振るサーバー。

DNS サーバー

Domain Name System Server の略。IP ネットワーク上の機器同士が接続する場合、接続相手の IP アドレスが必要であるが、数字の並びである IP アドレスでは相手を想像することが難しいため、相手に名前を付加し (ドメイン名)、それで相手を想像することを容易にするシステムが構築された。これが Domain Name System である。クライアント機器は、ドメイン名を使用して相手機器に接続するとき、DNS サーバーに問い合わせをすることで、相手機器の IP アドレスを取得して接続する。

H.264

映像データの圧縮方式の1つでISO、およびITU-Tとの共同標準化組織JVT（Joint Video Team）により標準化された規格。MPEG4より、さらに高圧縮で映像配信することができる。

H.265

H.264後継の動画圧縮規格。ISO/IEC、およびITU-Tとの共同標準化組織JCT-VC（Joint Collaborative Team on Video Coding）により提案され標準化された規格。ブロックサイズの適正化など圧縮効率が優れており、H.264より、さらに高圧縮で映像配信することができる。

HTTP ポート

Webサーバーとクライアント（Webブラウザなど）が、データを送受信するときに使うポート。

IP アドレス

Internet Protocol Addressの略。基本的にインターネットに接続する機器は、独自のIPアドレスが割り当てられている。

JPEG

Joint Photographic Expert Groupの略で、ISO（国際標準化機構）とITU-Tによって標準化されている静止画圧縮技術またはその規格のこと。インターネット上でなど、画像ファイルの圧縮方式として広く使用されている。

NTP サーバー

ネットワーク内で標準的に利用されている時刻情報サーバー。

SMTP サーバー

電子メールを送信または中継するためのサーバー。

SSL

Secure Sockets Layerの略。インターネット上で、暗号化した情報の通信を行うために、Netscape Communications社が開発したプロトコル。

TCP

Transmission Control Protocolの略。インターネットで使われる標準プロトコル。インターネットでは、他のプロトコルとしてUDPも使われるが、UDPは転送速度が速いが信頼性は低く、TCPは信頼性が高いが転送速度は遅いという特徴がある。

UDP

User Datagram Protocolの略。インターネットで使われる標準プロトコル。インターネットでは、他のプロトコルとしてTCPも使われるが、TCPは信頼性が高いが転送速度は遅く、UDPは転送速度が速いが信頼性は低いという特徴がある。

VBR

Variable Bit Rate controlの略。本設定を選択すると、撮影しているシーンに応じてビットレートが変化するように動作します。

索引

あ			
アカウント管理	29		
アクセス制限	31		
アクセスログ	15		
アプリケーションメニュー	41		
い			
一般設定	14, 24		
イベント設定	35		
イベント設定画面	35		
イベントメニュー	35		
インポート/エクスポートファイル	16		
え			
エクスポートファイル	16		
お			
音声検知	43		
音量	9		
オーディオ	23		
オーディオタイプ	23		
か			
画質指定	23		
画像	17		
画像コーデック	21		
画像設定	18		
画像調整	18		
カメラコントロールパネル	10		
カメラ設定	8		
カメラ設定メニュー	13		
カメラ妨害検知	42		
き			
キャプチャー	9, 49		
霧除去	18		
く			
クイック移動	11		
クライアント証明書	33		
クライアント設定	8		
クライアント秘密鍵	33		
グローバルビュー	10		
け			
権限の管理	30		
言語	8		
こ			
工場出荷設定	15		
コンテンツマネジメント	47		
コントラスト	49		
コーデック (Codec)	49		
さ			
最大フレームレート	22		
彩度	49		
サブネットマスク	49		
し			
システム	14		
システム再起動	15		
システムメニュー	14		
システムログ	15		
す			
スクリーンモード	9		
ストリーミングプロトコル	25		
ストレージ管理	46		
ストレージメニュー	46		
ズームスピード	10		
せ			
セカンダリー DNS サーバー	49		
セキュリティメニュー	29		
鮮鋭度 (シャープネス)	49		
そ			
操作パネル部	9		
双方向オーディオ	12		
測光エリア	19		
ち			
チルトスピード	10		
て			
デイ/ナイト設定	17		
デジタル入出力	42		
デジタル出力	10		
デジタル証明書	49		
デジタルズーム操作	10		
デフォルトゲートウェイ	49		
と			
動画サイズ	21		
動画保存の実行/停止	9		
動体検知	41		
ね			
ネットワークアドレス	49		
ネットワークメニュー	24		
は			
パラメーター	15		
パンスピード	10		
パン・チルト操作	10		
ひ			
日付&時間	14		
ビットレート	49		
ビデオ	21		
ビデオストリーム	9		
ビデオの設定	17		
ビュー	9		
ビューサイズ	9		
ビューパネル	9		
表示ウィンドウ	21		
ふ			
ファイルのアップロード	16		
フィルタータイプ	31		
フォーカス	20		
プライバシーマスク	20		
プライマリー DNS サーバー	49		
プリセットおよび巡回設定	34		
ブレ補正	18		
フレームレート	49		
プロキシサーバー	49		
プロファイルモード	19, 20		
ほ			
ホワイトバランス	18		
ま			
マイク音量	9		
マニュアルトリガー	10		
マルチキャスト	49		
マルチキャストストリーミング設定	26		
め			
メインメニュー	8		
メディアメニュー	17		
メンテナンス	15		
も			
モニター画面	8		
ゆ			
ユニキャスト	49		
ユニキャストストリーミング設定	26		
ユーザーアカウント	29		
よ			
用語集	49		
ら			
ライセンス表示	8		
ライブビューアー	8		
ライブ	8		
ろ			
ログ	15		
録画設定	44		
録画メニュー	44		
露出	19		
露出制御	19		
露出補正方法	19		

数字

3D ノイズリダクション 18

A

ActiveX コントロール 49

AE 速度調整 19

Audio 27

C

CA 証明書 33

CBR 49

D

DHCP サーバー 49

DNS サーバー 49

E

EAP 方式 33

F

FTP 29

H

H.264 50

H.265 50

HTTP 12

HTTP ストリーミング 25

HTTP ポート 50

HTTPS 30

I

I ピクチャ間隔 22

IEEE 802.1x 32

IEEE 802.1X ネットワークの
システム構成 32

Internet Explorer 4

IP アドレス 50

IPv6 24

J

JPEG 50

L

LAN 24

N

NAS 管理 46

NTP サーバー 50

P

PTZ 34

PTZ メニュー 34

Q

QoS 27

QoS の設定 28

R

RTSP ストリーミング 26

S

Save 13

SD カード管理 46

SD カードコントロール 46

SD カードフォーマット 46

SMTP サーバー 50

SNMP 28

SNMP 設定 28

SSL 50

T

TCP 12, 50

U

UDP 50

UDP マルチキャスト 12

UDP ユニキャスト 12

V

VBR 50

W

WDR (ワイドダイナミックレンジ)
..... 19

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ